

09/926205  
PCT/JP99/06301

11.11.99

JP99/6301

EKU

日本特許庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

REC'D	29 NOV 1999
WIPO	PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて #3  
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office.

Priority DC  
Saito  
1/10/92

出願年月日

Date of Application:

1999年 3月25日

出願番号

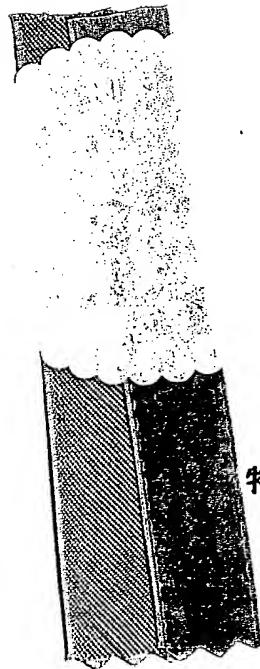
Application Number:

平成11年特許願第081471号

出願人

Applicant(s):

シチズン時計株式会社



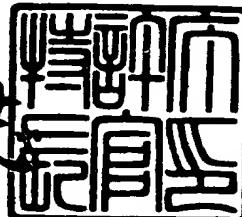
PRIORITY  
DOCUMENT

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

1999年 6月23日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

佐山 建



出証番号 出証特平11-3044699

【書類名】 特許願  
 【整理番号】 P-24594  
 【提出日】 平成11年 3月25日  
 【あて先】 特許庁長官 伊佐山 建志 殿  
 【国際特許分類】 G02F 1/1335  
 【発明の名称】 液晶表示パネル  
 【請求項の数】 16  
 【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県所沢市大字下富字武野840番地 シチズン時計  
 株式会社技術研究所内

【氏名】 関口 金孝

## 【特許出願人】

【識別番号】 000001960  
 【氏名又は名称】 シチズン時計株式会社  
 【代表者】 春田 博  
 【電話番号】 03-3342-1231

## 【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 平成10年特許願第 77161号  
 【出願日】 平成10年 3月25日

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003517  
 【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1  
 【物件名】 図面 1  
 【物件名】 要約書 1  
 【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液晶表示パネル

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、

前記液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、前記対向電極とセグメント電極との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、

前記画素部の周囲には、液晶層に電圧を印加するための補足電極を有することを特徴とする液晶表示パネル。

【請求項2】 下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、

前記液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、前記対向電極とセグメント電極との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、

前記画素部の周囲には、液晶層に電圧を印加するための補足電極を有し、

前記対向電極と補足電極との重畠部を背景部とし、

前記画素部と背景部とにより、液晶層と接するほぼ全面に均一な表示を行うことが可能である

ことを特徴とする液晶表示パネル。

【請求項3】 下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、

前記液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、前記対向電極とセグメント電極との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、

前記セグメント電極間には、わずかな間隙を介して補足電極を設けてあり、  
対向電極と補足電極との重畠部を背景部とし、

前記対向電極とセグメント電極と補足電極とに電圧を印加し、画素部と背景部とにより、液晶層と接するほぼ全面に均一な表示を行うことが可能である

ことを特徴とする液晶表示パネル。

【請求項4】 下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、

前記液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、前記対向電極とセグメント電極との重畳部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、

前記セグメント電極間、またはセグメント電極上と電極間とには、補足電極を有し、

セグメント電極と補足電極との間には、絶縁膜を有し、電気的に絶縁されている

ことを特徴とする液晶表示パネル。

【請求項5】 上基板上には、補足電極を有し、

前記補足電極上には、絶縁膜を有し、

前記絶縁膜上には、セグメント電極を有し、

さらに、上基板と所定の間隙を設けて対向する下基板上には、セグメント電極と補足電極とに重畳する対向電極を有し、

前記下基板と上基板との間に液晶層を有し、

前記対向電極とセグメント電極との重畳部からなる画素部と、対向電極と補足電極との重畳部からなる背景部とを有する

ことを特徴とする液晶表示パネル。

【請求項6】 前記補足電極上に設ける絶縁膜は、

セグメント電極を設けていない部分には、開口部を有する

ことを特徴とする請求項5に記載の液晶表示パネル。

【請求項7】 上基板の上には、セグメント電極と絶縁膜と補足電極とを有し、

前記補足電極は、前記セグメント電極上では、開口部を有し、セグメント電極以外の部分には、ほぼ全面に設けてあり、

セグメント電極と補足電極は、前記絶縁膜により絶縁されており、

さらに下基板上には、セグメント電極と補足電極と重畳する対向電極を有し、

前記下基板と上基板との間に液晶層を有し、

前記対向電極とセグメント電極との重畠部からなる画素部と、対向電極と補足電極との重畠部からなる背景部とを有する

ことを特徴とする液晶表示パネル。

【請求項8】 前記セグメント電極上に設ける絶縁膜は、  
開口部を有する

ことを特徴とする請求項7に記載の液晶表示パネル。

【請求項9】 下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、

前記液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、前記対向電極とセグメント電極との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、

上基板上にはセグメント電極に所定の信号を印加する配線電極を有し、  
配線電極上と上基板上とには絶縁膜を有し、

前記配線電極上の絶縁膜には一部絶縁膜を除去してなる開口部を有し、  
前記絶縁膜上にはセグメント電極を配置し、

前記配線電極上の開口部を介してセグメント電極と接続を行い、  
さらに前記画素部の周囲には、液晶層に電圧を印加するための補足電極を有する

ことを特徴とする液晶表示パネル。

【請求項10】 前記背景部に印加する電圧とほぼ等しい電圧を印加する画素部と、

前記電圧より、小さいか、または大きい電圧を印加することにより、背景部と異なる光学特性となる画素部を利用し表示を行う

ことを特徴とする請求項1から9のいずれか1項に記載の液晶表示パネル。

【請求項11】 前記液晶層は、  
液晶と透明固体物からなる混合液晶層である  
ことを特徴とする請求項1から10のいずれか1項に記載の液晶表示パネル。

【請求項12】 前記液晶層は、  
液晶と二色性色素からなる混合液晶層である  
ことを特徴とする請求項1から10のいずれか1項に記載の液晶表示パネル。

【請求項13】 前記下基板の下側には、光発電素子を有し、  
外部光量により、背景部の表示を可変する  
ことを特徴とする請求項1から12のいずれか1項に記載の液晶表示パネル。

【請求項14】 前記セグメント電極に接続する配線電極は、  
配線内に複数の孔を有する  
ことを特徴とする請求項1から13のいずれか1項に記載の液晶表示パネル。

【請求項15】 前記補足電極は、  
複数に分割している  
ことを特徴とする請求項1から14のいずれか1項に記載の液晶表示パネル。

【請求項16】 前記対向電極は複数に分割しており、  
さらに、分割する対向電極はわずかな対向電極ギャップを介して近接する補助  
電極を有する  
ことを特徴とする請求項1から15のいずれか1項に記載の液晶表示パネル。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

##### 【発明の属する技術分野】

本発明は、上基板上には、セグメント型の電極（セグメント電極）を有し、下基板上には、セグメント電極と対向するように配置する対向電極を有し、下基板と上基板との間に液晶層を封入する液晶表示パネルにおいて、セグメント電極と対向電極との間に電圧を印加して液晶層の光学変化を利用して表示を行う、いわゆるセグメント型の液晶表示パネルに関するものである。

##### 【0002】

セグメント型の表示は、マトリクス型に比較して、表示容量は少ないが、簡便で、製造コストが低いため、時計や携帯電話等に積極的に利用されている。

## 【0003】

## 【従来の技術】

現在のセグメント型の液晶表示パネルでは、セグメント電極と対向電極の重畠する部分が表示部として作用し、表示部の間を制御することができなかった。

そのため、とくに液晶層として液晶と透明固体物との混合液晶層を利用し、電圧の非印加時に散乱性を有する場合、または電圧の非印加時に透過性を有する場合には、従来の偏光板を利用する場合と異なり、液晶層の材料、または製造方法を改良する方法が必要になり、偏光板の貼り合わせ角度により簡単に表示の反転を行うことができない。

同様に、液晶と二色性色素からなる混合液晶層も透過と着色性を簡単に反転することができない。

## 【0004】

つぎに、液晶表示パネルの従来技術を図面に基づいて説明を行う。図18は、液晶表示パネルのセグメント部を拡大する平面図であり、図19は、図18のA-A線における液晶表示パネルの断面図である。

以下に、図18と図19とを交互に用いて液晶表示パネルにおける従来技術を説明する。

## 【0005】

液晶表示パネルの下側に使用するガラス基板である下基板1上には、透明導電膜からなる対向電極2を設ける。下基板1と所定の間隙を設けて配置するガラス基板である上基板3上には、対向電極2と相互に重なり合う透明導電膜からなるセグメント電極15, 16, 17, 18, 19, 20と21（総称4とする）を設ける。

セグメント電極15からセグメント電極21は八の字の配置をとり、各セグメント電極15から21の間には、ギャップを有する、いわゆるセブン・セグメント型の配置である。また、各セグメント電極15からセグメント電極21には、配線電極12を有する。

## 【0006】

また、下基板1と上基板3は、所定の間隙を設けてシール材（図示せず）によ

り貼りあわせ、液晶と透明固体物との混合液晶層5を封入している。

#### 【0007】

透明固体物は、混合液晶層5に有機モノマーを溶解しておき、下基板1と上基板3との間隙に注入を行った後に、紫外線を照射して形成する。

表示は、液晶の光学的屈折率の異方性を利用し、液晶と透明固体物との光学的屈折率がほぼ等しい場合には、透明となり、異なるに従い、散乱度が増加する。

実際は、混合液晶層5の両端の対向電極2とセグメント電極15からセグメント電極21に所定の信号を印加し、液晶の光学的屈折率を制御することにより、目的の表示を行う。

たとえば、「1」を表示する場合には、セグメント電極の17と21と対向電極2間に電圧を印加し、他のセグメント電極15, 16, 18, 19と20と対向電極2間に電圧を印加しないことにより、セグメント電極17と21上の表示部32のみ散乱度が低下（透過率が向上）し、他と異なる散乱度となるため、「1」と認識される。

#### 【0008】

しかし、セグメント電極15から21上の表示部32は、対向電極2との間に液晶層5を介して電圧を印加することにより、散乱と透過を制御することができるが、表示部32の周囲の背景部33は、常時散乱性を保持している。

そのため背景部33を透過状態にする場合には、混合液晶層の材料の改良、または製造方法の改良などが必要となり、従来技術におけるツイステッドネマティック(TN)液晶、またはスーパーツイステッドネマティック液晶(STN)を利用するように、偏光板の角度を変更するこでは達成することができない。

#### 【0009】

さらに、同一液晶表示パネルにおいて、たとえば、背景部を散乱状態とし、表示部を透過状態とする表示と、逆に背景部を透過状態とし、表示部を散乱状態とする表示を行うことは、難しい。

また、ツイステッドネマティック(TN)液晶やスーパーツイステッドネマティック液晶(STN)においても、同一の液晶表示パネルにおいて、表示と背景部とを、たとえば、散乱状態と透過状態とを、電気的に反転することは難しい。

## 【0010】

以上に示す液晶と透明固体物を含む混合液晶層のほかに、液晶と二色性染料を含む混合液晶層においても同様である。

## 【0011】

## 【発明が解決しようとする課題】

そのため、液晶層の透過、散乱、吸収量の変化により表示を行う液晶表示パネルにおいて、液晶層の材料、または製造方法を変更せずに、背景部と表示部の透過、散乱、または吸収量を制御することが重要となる。

## 【0012】

また、背景部の透過、散乱、または吸収量を制御し、液晶表示パネルの下側の情報を液晶表示パネルを観察する観察者に認識させる、または液晶表示パネルの下側に配置する光発電素子に必要な光を照射することためには、従来技術に示す液晶表示パネルでは充分ではない。

そこで本発明の目的は、上記課題点を解決して、セグメント電極と補足電極により、セグメント電極上の表示部とその周囲の背景部の表示の反転表示、または液晶表示パネルの透過率を大きく可変することができる液晶表示パネルを提供することである。.

## 【0013】

## 【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明の液晶表示パネルにおいては、下記記載の構成を採用する。

## 【0014】

本発明の液晶表示パネルは、下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、対向電極とセグメント電極との重疊部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、画素部の周囲には、液晶層に電圧を印加するための補足電極を有することを特徴とする。

## 【0015】

本発明の液晶表示パネルは、下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設ける

セグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、対向電極とセグメント電極との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、画素部の周囲には、液晶層に電圧を印加するための補足電極を有し、対向電極と補足電極との重畠部を背景部とし、対向電極とセグメント電極と補足電極とに電圧を印加することにより、液晶層に接するほぼ全面に均一な表示を行うことが可能であることを特徴とする。

#### 【0016】

本発明の液晶表示パネルは、下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、対向電極とセグメント電極との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、セグメント電極間には、わずかな間隙を介して補足電極を設けてあり、対向電極と補足電極との重畠部を背景部とし、対向電極とセグメント電極と補足電極とに電圧を印加することにより、液晶層に接するほぼ全面に均一な表示を行うことが可能であることを特徴とする。

#### 【0017】

本発明の液晶表示パネルは、下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、対向電極とセグメント電極との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、セグメント電極間、またはセグメント電極上と電極間とには、補足電極を有し、セグメント電極と補足電極との間には、絶縁膜を有し、電気的に絶縁されていることを特徴とする。

#### 【0018】

本発明の液晶表示パネルは、上基板上には補足電極を有し、補足電極上には絶縁膜を有し、絶縁膜上には、セグメント電極を有し、さらに、上基板と所定の間隙を設けて対向する下基板上には、セグメント電極と補足電極とに重畠する対向電極を有し、下基板と上基板との間に液晶層を有し、対向電極とセグメント電極

との重畠部からなる画素部と、対向電極と補足電極との重畠部からなる背景部とを有することを特徴とする。

## 【0019】

本発明の液晶表示パネルは、上基板上には、セグメント電極と絶縁膜と補足電極とを有し、補足電極は、セグメント電極上では、開口部を有し、セグメント電極以外の部分には、ほぼ全面にあり、セグメント電極と補足電極は、絶縁膜により絶縁されており、さらに、下基板上には、セグメント電極と補足電極と重畠する対向電極を有し、下基板と上基板との間に液晶層を有し、対向電極とセグメント電極との重畠部からなる画素部と、対向電極と補足電極との重畠部からなる背景部とを有することを特徴とする。

## 【0020】

本発明の液晶表示パネルは、下基板上に設ける対向電極と、上基板上に設けるセグメント電極と、下基板と上基板との間に液晶層を有し、液晶層に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、対向電極とセグメント電極との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、上基板上にはセグメント電極に所定の信号を印加する配線電極を有し、配線電極上と上基板上とには絶縁膜を有し、配線電極上の絶縁膜には一部絶縁膜を除去してなる開口部を有し、絶縁膜上にはセグメント電極を配置し、配線電極上の開口部を介してセグメント電極と接続を行い、さらに画素部の周囲には、液晶層に電圧を印加するための補足電極を有することを特徴とする。

## 【0021】

本発明の液晶表示パネルは、背景部に印加する電圧とほぼ等しい電圧を印加する画素部と、背景部に印加する電圧より、小さいか、または大きい電圧を印加することにより、背景部と異なる光学特性となる画素部を利用し表示を行うことを特徴とする。

## 【0022】

本発明の液晶表示パネルに利用する液晶層は、液晶と透明固体物からなる混合液晶層であることを特徴とする。

【0023】

本発明の液晶表示パネルを利用する液晶層は、液晶と二色性色素からなる混合液晶層であることを特徴とする。

【0024】

本発明の液晶表示パネルは、下基板の下側には、光発電素子を有し、外部光量により、背景部の表示を可変することを特徴とする。

【0025】

本発明の液晶表示パネルを利用するセグメント電極に接続する配線電極は、配線内に複数の孔を有することを特徴とする。

【0026】

本発明の液晶表示パネルを利用する補足電極は複数に分割していることを特徴とする。

【0027】

本発明の液晶表示パネルを利用する対向電極は複数に分割しており、さらに分割する対向電極はわずかな対向電極ギャップを介して近接する対向電極用補足電極を有することを特徴とする。

【0028】

<作用>

以上の構成を採用することにより、従来の液晶層を用いても、セグメント電極の周囲に補足電極を配置し、さらに、対向電極を補足電極上にも設け、背景部とすることにより、セグメント電極と対向電極と同様に、対向電極と補足電極間に液晶層を介して電圧を印加することができるため、背景部の表示を表示部と同様に可変することが可能となる。

【0029】

また、補足電極の配置をセグメント電極と一定の間隙を設けて配置することにより、従来のセグメント電極のパターン形成工程を利用し、補足電極を形成することが可能となり、工程上の負担は、ほとんどなく、有効な液晶表示パネルとすことができる。

## 【0030】

また、セグメント電極に外部回路から所定の電圧を印加するために、セグメント電極に接続する配線電極の幅を細くすることにより、背景部の表示に影響する配線電極と対向電極との間の液晶層の光学変化は、小さくすることができる。また配線電極と補足電極との配線ギャップを小さくすることが望ましい。

そこで、配線電極と配線ギャップの合計幅寸法は、が500マイクロメートル( $\mu\text{m}$ )から2マイクロメートル( $\mu\text{m}$ )まで作成し、視認性の検査を10から50代の各10名の人により実施した。

その結果、年齢が上がるほど配線電極幅と配線ギャップ幅を大きくても良い傾向に合ったが、10、20歳代でも、配線電極幅と配線ギャップは、20マイクロメートル( $\mu\text{m}$ )以下ではほとんど認識できないことが分かった。また、30マイクロメートル( $\mu\text{m}$ )でも、わずかに認識できる程度であった。

## 【0031】

また、配線電極の幅と配線ギャップの幅の比率を可変することにより多少の認識度合いに差が見られるが、全体の幅を小さくすることの影響が大きかった。

## 【0032】

したがって、セグメント電極と補足電極の間のセグメント電極ギャップと、配線電極と補足電極の間の配線ギャップとを30マイクロメートル( $\mu\text{m}$ )以下として利用することにより、ほとんど背景部は、配線電極の影響を受けず表示することが可能となる。

## 【0033】

また、セグメント電極と補足電極との間、および、配線電極と補足電極との間に絶縁膜を設けることにより、セグメント電極と補足電極、または配線電極と補足電極とを重ね合わせることが可能となり、さらに、背景部への配線電極の影響を小さくすることができる。

## 【0034】

また、セグメント電極上の周囲と配線電極上とに絶縁膜を設け、さらに、絶縁膜上に補足電極を設けることにより、配線電極の影響は無くなり、さらに、背景部と表示部の間にセグメント電極ギャップが無くなり、良好な表示品質を達成す

ることができる。

### 【0035】

また上基板上に配線電極を設け、絶縁膜を介してセグメント電極を設け、各配線電極とセグメント電極とを絶縁膜の一部に設ける開口部を介して電気的に接続し、各セグメント電極の電気的絶縁分離を行い、さらにセグメント電極の周囲に補足電極を一定の間隙を介して設けることにより複雑な配線電極の場合においてもほぼ全面均一な表示を行うことが可能となる。

とくに、液晶表示パネルを拡大して使用する場合には有効な構成である。

### 【0036】

また、セグメント電極の周囲に設ける補足電極を複数に分割しておくことにより対向電極と補足電極の間の電圧を制御することにより背景部の表示を複数に表示を行うことができる。

また、複数に分割する補足電極の間には遮蔽層、あるいは印刷層を設けることにより、各補足電極の表示の視認性を改善することができる。

### 【0037】

また、各セグメント電極が複数個連結し、連結するセグメント電極に対応して分離する対向電極を有するセグメント型液晶表示パネルにおいて、分割する対向電極と僅かな間隙を有する補助電極を設け、補助電極と補足電極に信号を印加することにより全面均一な表示を達成することができる。

### 【0038】

#### 【発明の実施の形態】

以下に本発明を実施するための最良の形態における液晶表示パネルと液晶表示パネルを利用する液晶表示装置として携帯電話について図面を参考しながら説明する。図1は、本発明の第1の実施形態における液晶表示パネルの7セグメントからなる画素部を拡大する平面図である。図2は、図1に示すB-B線における液晶表示パネルの断面図である。図3は、本発明の第1の実施形態の液晶表示パネルを利用する携帯電話を示す平面模式図である。図4は、図3に示すC-C線における携帯電話の断面模式図である。

以下に、図1と図2と図3と図4とを交互に使用して本発明の第1の実施形態

を説明する。

## 【0039】

## &lt;第1の実施形態&gt;

まず、液晶表示パネルの構成は、透明基板である下基板1上に透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなる対向電極2を有する。下基板1と所定の間隙を設けて対向する透明基板である上基板3上には、透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなるセグメント電極15から21(総称符号4とする)を設ける。

図1に示すように、セグメント電極15からセグメント電極21は、八の字状に7セグメントに分割して配置される。各セグメント電極15から21は、所定の間隙を有する。

## 【0040】

またセグメント電極の17を代表して説明する。セグメント電極17は、配線電極12に接続し、セグメント電極17の幅に比較し、配線電極12の幅は小さい。

さらに、セグメント電極17の周囲には、セグメント電極ギャップ31を介して平面的に配置する補足電極11を有する。また、配線電極12の周囲には、配線ギャップ30を介して平面的に配置する補足電極11を有する。

図1に示すように、セグメント電極17と配線電極12の周囲を囲む形状に補足電極11を配置する。対向電極2は、セグメント電極15から21と配線電極12と補足電極11と重畠して設けてある。

## 【0041】

下基板1と上基板3との間には、液晶と透明固体物とを含む混合液晶層5を封入している。本第1の実施形態では、混合液晶層5の原材料として、大日本インキ製のPNM-157(商品名)の混合液晶層5を利用し、混合液晶層5を封入後に360ナノメートル(nm)以上の波長の紫外線を45mW/cm<sup>2</sup>の強度で、60秒間照射して作成している。

この混合液晶層5は、電圧無印加状態で散乱性を示す。

## 【0042】

図2はセグメント電極17と対向電極2との間には、電圧を印加せず。補足電極11と対向電極2との間には電圧を印加している状態を示してある。

セグメント電極17と対向電極2との間の混合液晶層5には、電圧が印加していないため、散乱状態の表示部32となる。同様に、配線電極12と対向電極2との間の混合液晶層5にも電圧が印加していないため、散乱状態の配線表示部34となる。

また、表示部32の周囲のセグメント電極ギャップ31と配線ギャップ30の部分も電圧が印加されないため、散乱状態となる。

## 【0043】

この第1の実施形態では、配線ギャップ30とセグメント電極ギャップ31とは、3マイクロメートル(μm)と小さくし、さらに、配線電極12を20マイクロメートル(μm)とすることにより、補足電極11と対向電極2との間に電圧を印加し透過率の大きな表示部(背景部)33には、ほとんど認識することができない。

そのため、従来の混合液晶層5を利用して、補足電極11と対向電極2との間の混合液晶層5に電圧を印加し、透明状態として、セグメント電極15から21と対向電極2との間の混合液晶層5に印加する電圧を制御することにより、透過状態の背景部33に散乱状態の表示部32の表示が可能となる。

## 【0044】

また、本第1の実施形態においては、従来技術と異なり、補足電極11と対向電極2との間の混合液晶層5に印加する電圧を無くし、セグメント電極15から21と対向電極2との間の混合液晶層5に印加する電圧を制御することにより、散乱状態の背景部33に透過状態の表示部32を表示することも可能となる。

## 【0045】

以上により、混合液晶層5を利用し、透過状態の背景部33に散乱状態の表示部32の表示と、散乱状態の背景部33に透過状態の表示部32の表示が電圧制御により可能となる。

また、セグメント電極15からセグメント電極21の周囲にセグメント電極ギ

マップ31を設け、配線電極12の周囲に配線ギャップ30を設けることによつて、同一の透明導電膜により、表示部32と背景部33とを相互に補足するよう、表示を行うことが可能となり、製造工程上も従来と同等で、以上の効果を達成することができる。

#### 【0046】

つぎに本発明の液晶表示パネルを携帯電話に利用する場合の構成を説明する。携帯電話の構成は、外装ケース41と裏蓋43と風防ガラス42とを有し、空間内に、液晶表示パネルを配置する。

液晶表示パネルの下側には、所定の間隙を介して反射板47を設け、さらに、回路基板45と回路および混合液晶層5を駆動するための電池44を有する。

#### 【0047】

また、液晶表示パネルへ所定の電圧を印加するための接続は、導電性材料と絶縁性材料を積層するゼブラゴム46により行い、ゼブラゴム46は、上基板3上の接続電極（図示せず）とセグメント用端子（図示せず）とに接続している。

下基板1上の対向電極2は、シール部6に含む導電性ビーズ（図示せず）により、電気的に上基板3上の接続電極（図示せず）へ配置転換している。また、下基板1と反射板47との間には、主光源となる外部光源（図示せず）が暗い場合に点灯するライトエミッテドダイオード（LED）素子を有する。ライトエミッテドダイオード（LED）素子は、補助光源48として機能する。

また、混合液晶層5が散乱性を有するため、鏡面の反射板47を使用しても、混合液晶層5により散乱と反射をするため、均一は面光源となる。

#### 【0048】

さらに上基板3上には、シール部6を遮蔽するための見切り板49を設ける。

また、上基板3上には混合液晶層5の紫外線による劣化を防止するために紫外線カットフィルム50を粘着材により接着している。

#### 【0049】

さらに回路基板45の裏側には携帯電話の受信と発信を行う受信発信回路40を有する。

受信発信回路40はアンテナ37に接続して信号の受信と発信を可能とする。

## 【0050】

また、携帯電話には、時刻合わせ、表示内容の切り替えを簡便にするためと携帯電話の受信と送信を片手で操作できるようにする調整ボタン57を本体の左右侧面に設ける。左右に設けるのは左右の利き腕の観察者に対応するためである。

さらに、表示を変更する、あるいは表示の内容を上下、左右に移動するための調整ノブ38を有する。電話番号、または文字の有力を行う数字入力ボタン39を有する。

## 【0051】

以上の携帯電話の見切り板49の内側は3種類の表示に分割している。液晶表示パネルは、観察者により表示を観察することができる。表示内容は、時刻表示部53とモード表示部54と、キャラクター表示部54と電話番号等のメモ表示部55とからなる。

## 【0052】

つぎに、図5のシステムブロック図を用いて以上の液晶表示パネルの表示部と背景表示部の制御システムの構成を説明する。図5は、液晶表示パネルの表示を制御するシステムブロック図である。

以下に、図5を用いて説明する。

## 【0053】

この図5に示すように、電源回路61により所定のシステムの基本電源が形成され、各回路ブロック62により必要な電圧に変換されて供給される。また、基本クロック発信回路63からの基本クロックは、同期分離回路64により、セグメント系と対向電極系のクロックに分割され、セグメント同期回路65と対向電極同期回路66へ供給される。基本クロック発信回路63の信号は携帯電話の送受信に利用する発信源を利用する方法と個別に発信源を設ける方法がある。

セグメント同期回路65の信号は、セグメント電極を駆動するための信号を発生するセグメント駆動回路67と補足電極を駆動するための信号を発生する補足電極駆動回路69へ信号を供給する。

## 【0054】

また、対向電極同期回路66の信号は、対向電極を駆動するための信号を発生

する対向電極駆動回路68と補足電極を駆動するための信号を発生する補足電極駆動回路69へ信号を供給する。

セグメント駆動回路67の出力部は、上基板3上のセグメント用端子26に接続する。同様に、各セグメント電極15から21にも独立に接続する。また、対向電極駆動回路68の出力部は、上基板3上の対向電極2に接続する。

また、補足電極駆動回路69の出力部は、補足電極11に接続する。

#### 【0055】

さらに、同期分離回路64には、セグメント電極と補足電極と対向電極の電圧を反転する回路構成を設けてあるため、補足電極と対向電極の電圧の大小によって、透過状態の背景部と散乱状態の背景部を選択することが可能となる。

同様に、表示部33の表示も透過状態と散乱状態を背景部33と同期して選択することが可能となる。

#### 【0056】

以上の構成を採用することにより、セグメント電極構造の液晶表示パネルにおいても、背景部33の制御と、背景部33と同期する表示部32の制御により、色々な表示が可能となる。

とくに、携帯電話への応用としては、液晶表示パネルの下側に隠してある表示を背景部33の散乱状態と透過状態とを切り替えることにより、オンとオフすることができる。

#### 【0057】

##### 〈第2の実施形態〉

以下に本発明の第2の実施形態における液晶表示パネルの構成を図面を参照しながら説明する。図6は、本発明の第2の実施形態における液晶表示パネルの7セグメントからなる画素部の一部を拡大する平面図である。図7は、図6に示すD-D線における液晶表示パネルの断面図である。

以下に、図6と図7とを交互に用いて第2の実施形態を説明する。

#### 【0058】

まず、液晶表示パネルの構成は、下基板1上に透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなる対向電極2を有する。下基板1と所定の間隙を設け

て対向する上基板3上には、透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなるセグメント電極4、と18から21を設ける。

図6に示すように、セグメント電極18から21は、八の字状に7セグメントに分割して配置される構成を有し、図示する部分は、その一部である。各セグメント電極18から21は、所定の間隙を有する。

#### 【0059】

また、セグメント電極の21を代表して説明する。セグメント電極21は、配線電極12に接続し、セグメント電極21の幅に比較し、配線電極12の幅は小さい。

さらに、セグメント電極21の周囲に重なり合い、セグメント電極21の周囲には、絶縁膜7を介して透明導電膜からなる補足電極11を設ける。

また、配線電極12の部分では、補足電極11が配線電極12の下側にあるため、配線電極12とギャップの影響を防止するため、配線電極12と上基板3との間に、絶縁膜7と補足電極11を設けている。配線電極12は、15マイクロメートル( $\mu m$ )の線幅を用いていることにより、配線電極12と対向電極2との間に電圧が印加することによる液晶層5の光学変化の視認性を低減できる。

#### 【0060】

下基板1と上基板3との間には、シール部6を設け、液晶と透明固体物とを含む混合液晶層5を封入している。この第2の実施形態では、混合液晶層5の原材料として、大日本インキ製のPNM-157(商品名)からなる混合液晶層5を利用し、混合液晶層5を封入後に360ナノメートル(nm)以上の波長の紫外線を45mW/cm<sup>2</sup>の強度で、60秒間照射して作成している。

この混合液晶層5は、電圧無印加状態で散乱性を示す。

#### 【0061】

各セグメント電極には、表示領域内は、細い幅の配線電極12を接続し、さらに、混合液晶層5からみて、シール部6の外側(図面では、下側)には、セグメント用端子26が接続している。

またさらに、補足電極11には、補足電極用端子13が接続し、外部回路(図示せず)と接続を可能としいる。

## 【0062】

図7は、セグメント電極21と対向電極2との間には、電圧を印加せず。補足電極11と対向電極2との間には電圧を印加している状態を示してある。

セグメント電極21と対向電極2の間の混合液晶層5には、電圧が印加していないため散乱状態の表示部32となる。同様に、配線電極12と対向電極2との間の混合液晶層5にも電圧が印加していないため、散乱状態の配線表示部34となる。

この第2の実施形態においては、補足電極11上に絶縁膜7を設け、補足電極11の周囲の絶縁膜7上にセグメント電極21が重なるため、セグメント電極と対向電極2、および補足電極11と対向電極2との電圧を印加することにより、全面に透過状態とすることが可能となり、また、これとは逆に電圧を印加しない場合には、全面散乱状態とすることができます。

## 【0063】

たとえば、補足電極11と対向電極2に電圧を印加し透過状態とし、セグメント電極21と対向電極2との間に電圧を印加しない場合には、目的とするセグメント表示部（表示部）32が散乱状態となる。

また、配線電極12上も散乱状態となるが、配線電極12の線幅を小さくしているため、ほとんど認識することができない。

## 【0064】

また、補足電極12と対向電極2の間の混合液晶層5に有効に電圧を印加するため、およびセグメント電極と対向電極2の間の混合液晶層5に近い電圧を印加するため、補足電極11上の絶縁膜7をセグメント電極と自己整合的な辺にて除去している。

そのため、全面透明状態とする場合に、均一な表示の実現が可能である。

## 【0065】

## &lt;第3の実施形態&gt;

以下に本発明の第3の実施形態における液晶表示パネルの構成を図面を参照しながら説明する。図8は、本発明の第3の実施形態における液晶表示パネルの7セグメントからなる画素部の一部を拡大する平面図である。図9は、セグメント

電極と配線電極12の一部を拡大する平面図である。図10は、図8に示すE-E線における液晶表示パネルの断面図である。

以下に、図8と図9と図10とを交互に用いて第3の実施形態を説明する。

#### 【0066】

まず、液晶表示パネルの構成は、下基板1上に透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなる対向電極2を有する。下基板1と所定の間隙を設けて対向する上基板3上には、透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなるセグメント電極4、と18から21を設ける。

図8に示すように、セグメント電極18から21は、八の字状に7セグメントに分割して配置される構成を有し、図示する部分は、その一部である。各セグメント電極18から21は所定の間隙を有する。

#### 【0067】

また、セグメント電極の21を代表して説明する。図9に示すようにセグメント電極21は、配線電極12に接続し、セグメント電極21の幅に比較し、配線電極12の幅は小さい。

そのため、配線電極12の視認性を低減するために配線電極12には、透明導電膜を設ける領域に複数の透明導電膜を設けていない孔35を設けることによって、透明導電膜の部分は小さく分割されているように認識にされる。

#### 【0068】

また図10に示すようセグメント電極(代表21)上の周囲と上基板3上と配線電極12上とには、感光性ポリイミド樹脂樹脂からなる絶縁膜7を設ける。

#### 【0069】

また、絶縁膜7上には、透明導電膜からなる補足電極11を設ける。絶縁膜7の形状は、補足電極11の形状と同一にすることができる。

補足電極11をマスクとして絶縁膜7をエッチング処理することにより、絶縁膜7を加工するための独立のパターン形成を行うことなく、簡単に絶縁膜7を補足電極11と同一形状に加工することができる。

セグメント電極上の絶縁膜7を除去することにより、補足電極11とほぼ同等の電圧がセグメント電極と対向電極2とに印加するこができるため、表示の均一

性が向上する。

また、セグメント電極と補足電極11により、シール部6の内側（表示領域であり、液晶層5に面する側）は、ほぼ全面電極にて覆う構成となる。

#### 【0070】

つぎに、下基板1と上基板3との間には、液晶と透明固体物とを含む混合液晶層5を封入している。この混合液晶層5は、液晶配向性透明固体物と液晶と液晶をツイストするためのカイラル材とからなり、電圧無印加状態で透過性を示し、電圧印加で散乱性を示す。

#### 【0071】

図10は、セグメント電極21と対向電極2との間に電圧を印加し、補足電極11と対向電極2との間に電圧を印加している状態を示してある。

セグメント電極21と対向電極2との間に電圧が印加しているため、散乱状態の表示部32となる。同様に、配線電極12にもセグメント電極21と同様な電圧を印加しているが、補足電極11が絶縁膜7を介して被服しているため、対向電極2との間に電圧が印加されないため、混合液晶層5は光学変化を起こさない。

#### 【0072】

各表示領域内のセグメント電極には、細い電極幅の配線電極12が接続し、さらに、混合液晶層5からみて、シール部6の外側（図面では下側）には、セグメント用端子26が接続している。

また、補足電極11には補足電極用端子13が接続し、外部回路（図示せず）と接続を可能としている。補足電極用端子13の電極幅を広くすることにより、外部回路との接続を容易かつ安定としている。

#### 【0073】

以上に説明する構成を採用することにより、セグメント電極（代表21）と補足電極11とを同電位とし、対向電極2との間に電位差を設けない場合には、液晶層5には電圧が印加されないため、表示領域は全面透過状態。

セグメント電極21に所定の電圧を印加し、対向電極2との間に電位差を設けることにより、混合液晶層5は散乱状態となり、透明の背景に散乱状態の表示部

32となり、観察者に認識される。本発明を採用することによって、セグメント電極21と補足電極11とを同電位とし、対向電極2との間に電位差を設けておき、混合液晶層5を散乱状態としておき、セグメント電極21と対向電極2との間の電位差を制御することにより、散乱状態に透過率の高い表示部32を認識することができる。

## 【0074】

## &lt;第4の実施形態&gt;

以下に本発明の第4の実施形態における液晶表示パネルの構成を図面を参照しながら説明する。図11は、本発明の第4の実施形態における液晶表示パネルの全体を示す平面図である。図12は、セグメント電極と配線電極12の一部を拡大する平面図である。図13は、図12に示すF-F線における液晶表示パネルの断面図である。以下に、図11と図12と図13とを交互に用いて第4の実施形態を説明する。

## 【0075】

まず液晶表示パネルの構成は、下基板1上に透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなる対向電極2を有する。下基板1と所定の間隙を設けて対向する上基板3上には、透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなるセグメント電極4(18、19、20、21)を設ける。

図11に示すように、八の字状のセグメント電極の集合体からなるブロックを6個と午前と午後表示部53とを有する。

また、液晶表示パネルの図面の上側には、時表示部54と、分表示部55を有し、下側には、午前と午後表示部53と、秒表示部56とを有する。

秒表示部は、曜日を示すために、7セグメント電極の他に2個のセグメント電極を設けている。

## 【0076】

また、各セグメント電極からは、表示部より配線電極を介して、シール部6を通過し、上基板3上にセグメント電極端子群59を有する。

また、図11に示すように、上基板3上に設ける補足電極11は、図面の上下方向に2分割してある。上下2分割することにより、たとえば、時と分を透明の

背景に色表示を行い、逆に、午前と午後表示と秒表示を色の背景に透明の表示を行うことができる。

対向電極2は、シール部6の外側に対向電極用端子14を有し、補足電極11も補足電極用端子13を有し、外部回路との接続を可能としている。

#### 【0077】

また、図12は、図11の破線に示す部分を拡大する平面図であり、セグメント電極の21を代表して説明する。図12に示すようにセグメント電極21は、配線電極12に接続し、セグメント電極21の幅に比較し、配線電極12の幅は小さい。

#### 【0078】

また、上基板3上には、図11に示すように、上下に2分割する補足電極11を透明導電膜により設ける。

さらに、補足電極11と上基板3上には、五酸化タンタル(Ta<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)膜からなる絶縁膜7を設ける。

#### 【0079】

また、絶縁膜7上には、透明導電膜からなるセグメント電極21を設ける。補足電極11上の絶縁膜7をパターン形成していないが、絶縁膜7の誘電率を大きくすることにより、絶縁膜7により消費される電圧は、小さくすることができるとともに、補足電極11と対向電極2との導電性ゴミによる電気的短絡を防止することが可能となる。

また、セグメント電極21と補足電極11により、シール部6の内側(表示領域であり、液晶層5に面する側)は、ほぼ全面電極にて覆う構成となる。

#### 【0080】

つぎに、下基板1と上基板3には、混合液晶層5を所定の向きに揃えるためにポリイミド樹脂からなる配向膜(図示せず)を設け、布で擦り混合液晶層5を配向している。

また、下基板1と上基板3との間には、液晶と二色性色素との混合液晶層5を封入している。本混合液晶層5は、180度から240度ツイストしており、電圧無印加時に二色性色素により着色している。

## 【0081】

図13は、セグメント電極21と対向電極2との間には、電圧を印加しておらず、補足電極11と対向電極2とのあいだには電圧を印加している状態を示してある。

セグメント電極21と対向電極2の間の混合液晶層5には、電圧が印加していないため、着色状態の表示部32となる。

## 【0082】

各セグメント電極には、表示領域内は、細い幅の配線電極12を接続し、さらに、混合液晶層5からみて、シール部6の外側（図面では下側）には、セグメント用端子26が接続している。

また、補足電極11には補足電極用端子13が接続し、外部回路（図示せず）と接続を可能としている。

## 【0083】

また、配線電極12上もセグメント電極21の電圧により、配線表示34が変化するが、配線電極12は、電極幅を10から15マイクロメートル（ $\mu\text{m}$ ）としているため、配線電極12上の光学変化はほとんど認識されない。

また、補足電極11とセグメント電極21の間は、平面的にはギャップがないため、補足電極11とセグメント電極21の間の表示は、シャープな表示が可能となる。

## 【0084】

以上に説明する構成を採用することにより、セグメント電極（符号代表21）と補足電極11とを同電位とし、対向電極2とのあいだに電位差を設けない場合には、液晶層5には電圧が印加されないため、表示領域は着色状態となる。

セグメント電極21に所定の電圧を印加し、対向電極2との間に電位差を設けることにより、混合液晶層5は透過状態となり、着色状態の背景部33に透過状態の表示部32となり、観察者に認識される。

本発明を採用することにより、セグメント電極21と補足電極11とを同電位とし、対向電極2との間に電位差を設けておき、混合液晶層5を透過状態としておき、セグメント電極21と対向電極2との間の電位差を制御することにより、

透過状態に着色状態の表示部32を認識することができる。

さらに、本発明の第4の実施形態においては、補足電極11を複数分割してい るため、同一の表示領域において、背景部33を透過状態、着色状態と複数の表示を可能とする。

#### 【0085】

液晶表示パネルの下側に光発電素子を配置し、液晶表示パネルを利用する液晶表示装置の電力の少なくとも一部を発電する場合には、光発電素子の観察者への視認性を低減することと、光発電素子への光の照射量、すなわち液晶表示パネルの高い透過率とは、相反する傾向にあるため、セグメント電極構造の液晶表示パネルの背景部の透過率を制御することは、とくに重要である。

さらに、液晶表示パネルの使用環境の明るさにより、発電量の制御を行うこと も、表示品質の制御も可能となるため、複数の補足電極11の構造を採用するこ とは重要となる。

#### 【0086】

##### <第5の実施形態>

以下に本発明の第5の実施形態における液晶表示パネルの構成を図面を参照しながら説明する。図14は、本発明の第5の実施形態における液晶表示パネルの断面図である。図14は、第4の実施形態におけるF-F線に相当する部分の断面図である。

以下に、図14を用いて第5の実施形態を説明する。

#### 【0087】

まず、液晶表示パネルの構成は、下基板1上に透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなる対向電極2を有する。

下基板1と所定の間隙を設けて対向する上基板3上には、透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなるセグメント電極4(21を代表)を設ける。

#### 【0088】

また、上基板3上には、上下に2分割する補足電極11を透明導電膜により設ける。さらに、補足電極11と上基板3上には、五酸化タンタル(Ta<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)膜

からなる絶縁膜7を設ける。

#### 【0089】

また絶縁膜7上には、透明導電膜からなるセグメント電極21を設ける。絶縁膜7の形状は、セグメント電極21と配線電極12の形状と同一にすることができる。

セグメント電極21と配線電極12とをマスクとして、絶縁膜7をエッチング処理することにより、絶縁膜7を加工するための独立のパターン形成を行うことなく、簡単に絶縁膜7をセグメント電極21と配線電極12と同一形状とすることができる。

補足電極11上の絶縁膜7を除去することにより、セグメント電極21とほぼ同等の電圧が補足電極11と対向電極2とに印加することができるため、表示の均一性が向上する。また、セグメント電極21と補足電極11により、シール部6の内側（表示領域であり、液晶層5に面する側）は、ほぼ全面電極にて覆う構成となる。

#### 【0090】

つぎに、下基板1と上基板3とには、混合液晶層5を所定の向きに揃えるためにポリイミド樹脂からなる配向膜（図示せず）を設け、布で擦り混合液晶層5を配向している。また、下基板1と上基板3との間には、液晶と2色性色素との混合液晶層5を封入している。

この混合液晶層5は、180度から240度ツイストしており、電圧無印加時に2色性色素により着色している。

#### 【0091】

図14は、セグメント電極21と対向電極2との間には、電圧を印加しておらず、補足電極11と対向電極2とのあいだには電圧を印加している状態を示してある。

セグメント電極21と対向電極2との間の混合液晶層5には、電圧が印加していないため、着色状態の表示部32となる。

#### 【0092】

また、配線電極12上もセグメント電極21の電圧により、配線表示34が変

化するが、配線電極12は、電極幅を10から15マイクロメートル(μm)としているため、配線電極12上の光学変化はほとんど認識されない。

また、補足電極11とセグメント電極21の間は、平面的にはギャップがないため、補足電極11とセグメント電極21の間の表示は、シャープな表示が可能となる。

#### 【0093】

以上に説明する構成を採用することにより、セグメント電極(代表21)と補足電極11とを同電位とし、対向電極2との間に電位差を設けない場合には、液晶層5には電圧が印加されないため、表示領域は着色状態となる。

セグメント電極21に所定の電圧を印加し、対向電極2との間に電位差を設けることにより、混合液晶層5は透過状態となり、着色状態の背景に透過状態の表示部32となり観察者に認識される。

本発明を採用することにより、セグメント電極21と補足電極11とを同電位とし、対向電極2との間に電位差を設けておき、混合液晶層5を透過状態としておき、セグメント電極21と対向電極2との間の電位差を制御することにより、透過状態に着色状態の表示部32を認識することができる。

さらに、この第5の実施形態においては、補足電極11を複数分割しているため、同一の表示領域において、背景部を透過状態、着色状態と複数の表示を可能とする。

#### 【0094】

##### <第6の実施形態>

以下に本発明の第6の実施形態における液晶表示パネルの構成を図面を参照しながら説明する。第6の実施形態の特徴は、セグメント電極と補足電極を同一平面上にセグメント電極ギャップを介して設け。さらにセグメント電極は下層の設ける絶縁膜用開口部を介して絶縁膜の下層に設ける配線電極と電気的接続を行う構造を採用する点である。図15は、本発明の第6の実施形態における液晶表示パネルの7セグメントからなる画素部の一部を拡大する平面図である。図16は、図15に示すG-G線における液晶表示パネルの断面図である。

以下に、図15と図16とを交互に用いて第6の実施形態を説明する。

## 【0095】

まず、液晶表示パネルの構成は、下基板1上に透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなる対向電極2を有する。下基板1と所定の間隙を設けて対向する上基板3上には、透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなる配線電極12を設ける。配線電極12はセグメント電極21の幅に比較し、配線電極12の幅は小さい。

配線電極12の表示領域内の一端は接続パッド29に接続し、シール部6の外部ではセグメント用端子26に接続している。

## 【0096】

配線電極12と上基板3上には光感光性樹脂からなる絶縁膜7を設ける。接続パッド29上の絶縁膜7には絶縁膜7を除去する絶縁膜用開口部36を有する。

絶縁膜7と絶縁膜用開口部36上とには透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなるセグメント電極18から21(符号代表4)を設ける。

図15に示すように、セグメント電極18から21は、八の字状に7セグメントに分割して配置される構成を有し、図示する部分は、その一部である。各セグメント電極18から21は、所定の間隙を有する。また7セグメントより多くのセグメント電極を設ける。あるいは直線的な各セグメント電極ではなく湾曲するセグメント電極を利用して丸い数字等の表示を行うセグメント電極配置もよい。

## 【0097】

セグメント電極の21を代表して説明する。セグメント電極21は、絶縁膜7の絶縁膜用開口部36を介して配線電極12に接続する。また絶縁膜7上にはセグメント電極21と配線ギャップ31を介して補足電極11を有する。

セグメント電極18から21と補足電極11は絶縁膜7を介して配線電極12と重なるため電気的に絶縁分離している。また絶縁膜7の静電容量を小さくすることにより、絶縁膜7にて消費する電気エネルギーをきわめて小さくすることができる。

## 【0098】

配線電極12の幅は観察者への視認性を低減するために小さくしている。またセグメント電極21と補足電極11とセグメント電極ギャップ31は10マイク

ロメートル ( $\mu\text{m}$ ) の幅を用いていることにより、セグメント電極21と対向電極2と、補足電極11と対向電極2との間に同一の電圧を印加することによりセグメント電極ギャップ31はほとんど見えなくできる。

#### 【0099】

下基板1と上基板3との間には、シール部6を設け、液晶と透明固体物とを含む混合液晶層5を封入している。

この第2の実施形態においては、混合液晶層5の原材料として、大日本インキ製のPNM-157（商品名）からなる混合液晶層5を利用し、混合液晶層5を封入後に360ナノメートル (nm) 以上の波長の紫外線を $4.5\text{ mW/cm}^2$ の強度で、60秒間照射して作成している。

この混合液晶層5は、電圧無印加状態で散乱性を示す。

#### 【0100】

各セグメント電極には、表示領域内は、細い幅の配線電極12を接続し、さらに、混合液晶層5からみて、シール部6の外側（図面では、下側）には、セグメント用端子26が接続している。

また、補足電極11には補足電極用端子13が接続し、外部回路（図示せず）と接続を可能としている。

#### 【0101】

図16は、セグメント電極21と対向電極2との重なる部分から構成する表示部32と、補足電極11と対向電極2との重なる部分から構成する背景部33には同一の電圧を印加している状態を示してある。そのため、表示部32と背景部33とは同一の透過率を示す。

さらに、セグメント電極21と補足電極11との間のセグメント電極ギャップ31の部分はセグメント電極21と補足電極11から対向電極2に対する斜め電界効果により混合液晶層5に大きな電圧を印加することにより表示部32と背景部33と同様な透過率を達成できる。

#### 【0102】

これはセグメント電極4と補足電極11とのセグメント電極ギャップ31を小さくすること、配線電極12を絶縁膜7を介して、セグメント電極4と補足電極

11と分離することによりできる。

### 【0103】

#### <第7の実施形態>

以下に本発明の第7の実施形態における液晶表示パネルの構成を図面を参照しながら説明する。第7の実施形態の特徴は、セグメント電極の2個が相互に接続しており、対向電極が分割しており、さらに対向電極に近接する部分に補助電極を設ける点である図17は、本発明の第7の実施形態における液晶表示パネルの7セグメントからなる画素部の一部を拡大する平面図である。

以下に、図17を用いて第7の実施形態を説明する。

### 【0104】

まず、液晶表示パネルの構成は、下基板1上に透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなる複数に分割する対向電極を設ける。第1の対向電極71と第2の対向電極72と補助電極73を設ける。

補助電極73は、対向電極71、72と対向電極ギャップ74を介して近接している。対向電極ギャップ74は10マイクロメートル(μm)としている。

### 【0105】

また、下基板1と所定の間隙を設けて対向する上基板3上には、透明導電膜として酸化インジウムスズ(ITO)膜からなるセグメント電極18から21を設ける。図17に示すように、セグメント電極18から21は、八の字状に7セグメントに分割して配置される構成を有し、図示する部分は、その一部である。

またセグメント電極18と21とが接続しており、セグメント電極19と20とが接続している。またセグメント電極18から21にはセグメント電極ギャップ31の間隙を有する補足電極11を有する。

表示領域はセグメント電極18から21と補足電極11とによりほとんどの面積が占められ、わずかな面積としてセグメント電極ギャップ31がある。

### 【0106】

また、第1の対向電極71はセグメント電極18と19と重なる位置に配置する。第2の対向電極72はセグメント電極20と21と重なる位置に配置する。

補足電極11とは補助電極73が対向する位置に配置しており、以上の電極に

電圧を印加することにより、表示領域は透過状態とすることができます。

#### 【0107】

またセグメント電極の21を代表して説明する。図17に示すようにセグメント電極21は、配線電極12に接続し、セグメント電極21の幅に比較し、配線電極12の幅は小さい。

またセグメント電極（代表21）上の周囲と上基板3上と配線電極12上とは、感光性ポリイミド樹脂樹脂からなる絶縁膜7を設ける。

#### 【0108】

また、絶縁膜7上には、透明導電膜からなる補足電極11を設ける。絶縁膜7の形状は、補足電極11の形状と同一にすることができる。

補足電極11をマスクとして絶縁膜7をエッティング処理することにより、絶縁膜7を加工するための独立のパターン形成を行うことなく、簡単に絶縁膜7を補足電極11と同一形状に加工することができる。

セグメント電極上の絶縁膜7を除去することによって、補足電極11とほぼ同等の電圧がセグメント電極と対向電極2とに印加するこができるため、表示の均一性が向上する。またさらに、セグメント電極と補足電極11により、シール部6の内側（表示領域であり、液晶層5に面する側）は、ほぼ全面電極にて覆う構成となる。

#### 【0109】

以上の構造を採用することにより複数のセグメント電極が電気的に接続するセグメント型の表示においても補足電極11と補助電極73とを利用することにより背景部の表示を表示部と同等の表示とすることが可能となる。

この第7の実施形態においては、2セグメント電極分を電気的に接続する構造を採用し、第1の対向電極71と第2の対向電極73を使用する実施形態を示しているが、さらに複数のセグメント電極を接続し、接続するセグメント電極の数と同等の対向電極を設ける構成においても当然第7の実施形態の構成は有効となる。

## 【0110】

## 【発明の効果】

以上の構成を採用することにより、従来の液晶層を用いても、セグメント電極の周囲に補足電極を配置し、さらに、対向電極を補足電極上にも設け、背景部とすることにより、セグメント電極と対向電極と同様に、対向電極と補足電極間に液晶層を介して電圧を印加することができるため、背景部の表示を散乱、透過、吸収状態と可変することができる。

## 【0111】

また、補足電極の配置をセグメント電極と一定の間隙を設けて配置することにより、従来のセグメント電極のパターン形成工程を利用し、補足電極を形成することが可能となり、工程上の負担は、ほとんどない。

## 【0112】

また、配線電極の幅と配線ギャップの幅の比率を可変することにより多少の認識度合いに差が見られるが、全体の幅を小さくすることの影響が大きかった。

## 【0113】

したがって、セグメント電極と補足電極の間のセグメント電極ギャップと、配線電極と補足電極の間の配線ギャップとを30マイクロメートル(μm)以下として利用することにより、ほとんど背景部は、配線電極の影響を受けず表示することが可能となる。

## 【0114】

また、セグメント電極と補足電極との間、および、配線電極と補足電極との間に絶縁膜を設けることにより、セグメント電極と補足電極、または配線電極と補足電極とを重ね合わせることが可能となり、さらに、背景部への配線電極の影響を小さくすることができる。

## 【0115】

また、セグメント電極上の周囲と配線電極上とに絶縁膜を設け、さらに絶縁膜上に補足電極を設けることにより、配線電極の影響は無くなり、さらに背景部と表示部の間にセグメント電極ギャップが無くなり、良好な表示品質を達成することができる。

【0116】

またさらに、液晶表示パネルの下側に光発電素子を設ける場合には、背景部の透過度、吸光度、または散乱度を制御することにより、光発電素子の発電量を制御することが可能となる。

【0117】

また、セグメント電極の周囲に設ける補足電極を複数に分割しておくことにより対向電極と補足電極の間の電圧を制御することにより背景部の表示を複数に表示を行うことができる。また複数に分割する補足電極の間には遮蔽層、または印刷層を設けることにより、各補足電極の表示の視認性を改善することができる。

【0118】

また、各セグメント電極が複数個連結し、連結するセグメント電極に対応して分離する対向電極を有するセグメント型液晶表示パネルにおいて、分割する対向電極と僅かな間隙を有する補助電極を設け、補助電極と補足電極に信号を印加することにより全面均一な表示を達成することができる。

【0119】

本発明の実施形態においては、携帯電話の例を示しているが、セグメント型のたとえば、PDA用液晶表示装置、またはオーディオ用の液晶表示装置においても当然本発明の効果は有効である。

【0120】

本発明の実施形態においては、使用する液晶層を各実施形態により異なる例を示してあるが、どの実施形態に利用しても、以上説明した本発明の効果は得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第1の実施形態における液晶表示パネル部分の一部拡大して示す図面である。

【図2】

本発明の第1の実施形態における液晶表示パネル部分の一部断面を示す図面である。

【図3】

本発明の第1の実施形態における携帯電話の平面模式図である。

【図4】

本発明の第1の実施形態における携帯電話の断面模式図である。

【図5】

本発明の実施形態における液晶表示パネル表示部と背景部の制御システムブロック図である。

【図6】

本発明の第2の実施形態における液晶表示パネル部分の一部拡大して示す図面である。

【図7】

本発明の第2の実施形態における液晶表示パネル部分の一部断面を示す図面である。

【図8】

本発明の第3の実施形態における液晶表示パネル部分の一部拡大して示す図面である。

【図9】

本発明の第3の実施形態における配線電極部分の拡大して示す図面である。

【図10】

本発明の第3の実施形態における液晶表示パネル部分の一部断面を示す図面である。

【図11】

本発明の第4の実施形態における液晶表示パネルの全体を示す平面模式図である。

【図12】

本発明の第4の実施形態における液晶表示パネル部分の一部拡大して示す図面である。

【図13】

本発明の第4の実施形態における液晶表示パネル部分の一部断面を示す図面で

ある。

【図14】

本発明の第5の実施形態における液晶表示パネル部分の一部断面を示す図面である。

【図15】

本発明の第6の実施形態における液晶表示パネル部分の一部拡大して示す図面である。

【図16】

本発明の第6の実施形態における液晶表示パネル部分の一部断面を示す図面である。

【図17】

本発明の第7の実施形態における液晶表示パネル部分の一部拡大して示す図面である。

【図18】

従来技術における液晶表示パネル部分の一部拡大して示す図面である。

【図19】

従来技術における液晶表示パネル部分の一部断面を示す図面である。

【符号の説明】

1 : 下基板	2 : 対向電極	3 : 上基板
4 : セグメント電極	5 : 液晶層、混合液晶層	
6 : シール部	7 : 絶縁膜	11 : 補足電極
12 : 配線電極	13 : 補足電極用端子	
14 : 対向電極用端子	15 : セグメント電極	
25 : 配線電極用端子	26 : セグメント電極用端子	
29 : 接続パッド	30 : 配線ギャップ	
31 : セグメント電極ギャップ	32 : 表示部	
33 : 背景部	34 : 配線表示	35 : 孔
36 : 絶縁膜用開口部	37 : アンテナ	
41 : 外装ケース	42 : 風防ガラス	61 : 電源回路

67：セグメント駆動回路

68：対向電極駆動回路

69：補足電極駆動回路

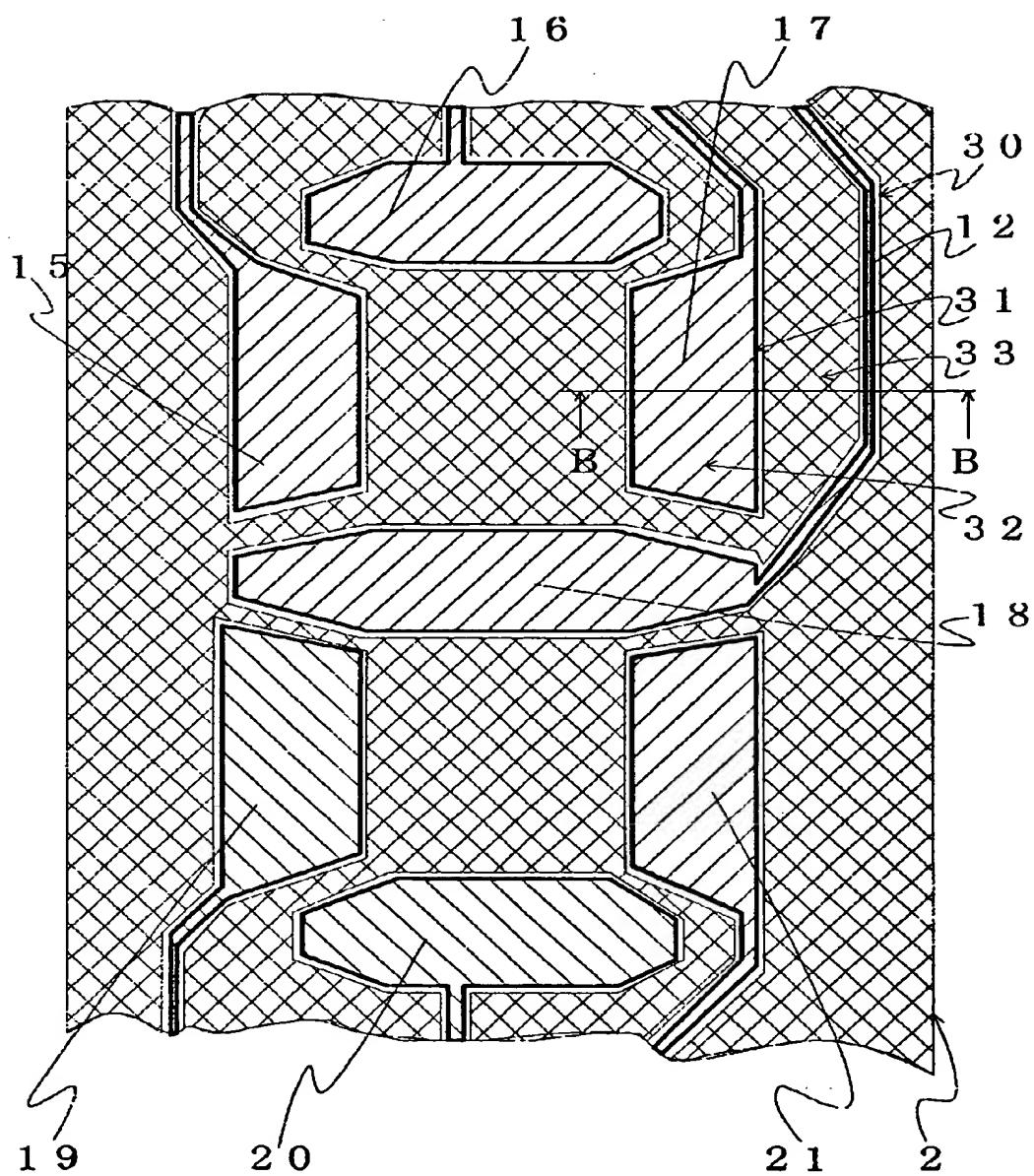
71：第1の対向電極

72：第2の対向電極

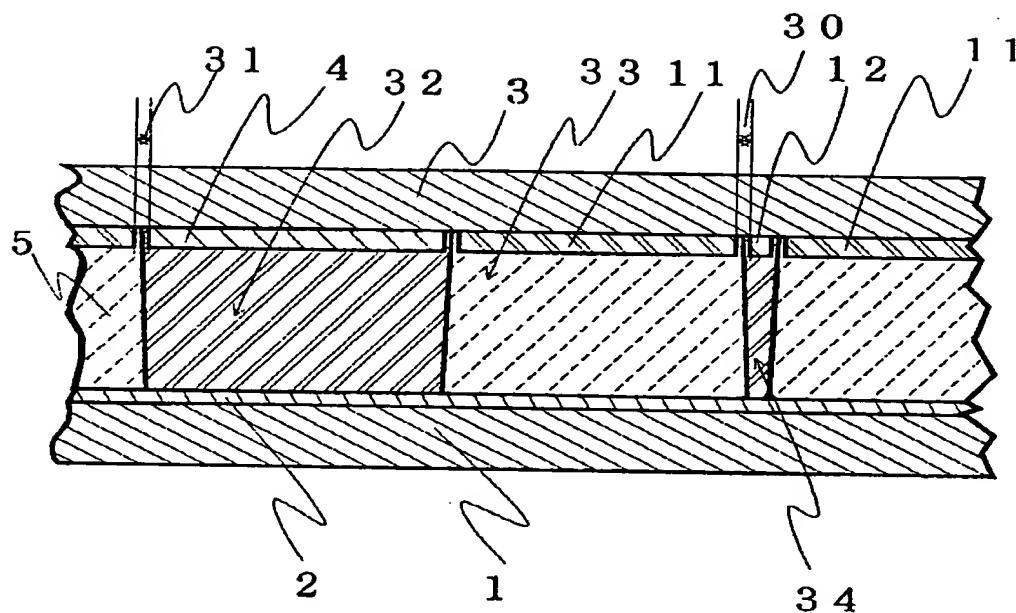
73：対向電極ギャップ

【書類名】 図面

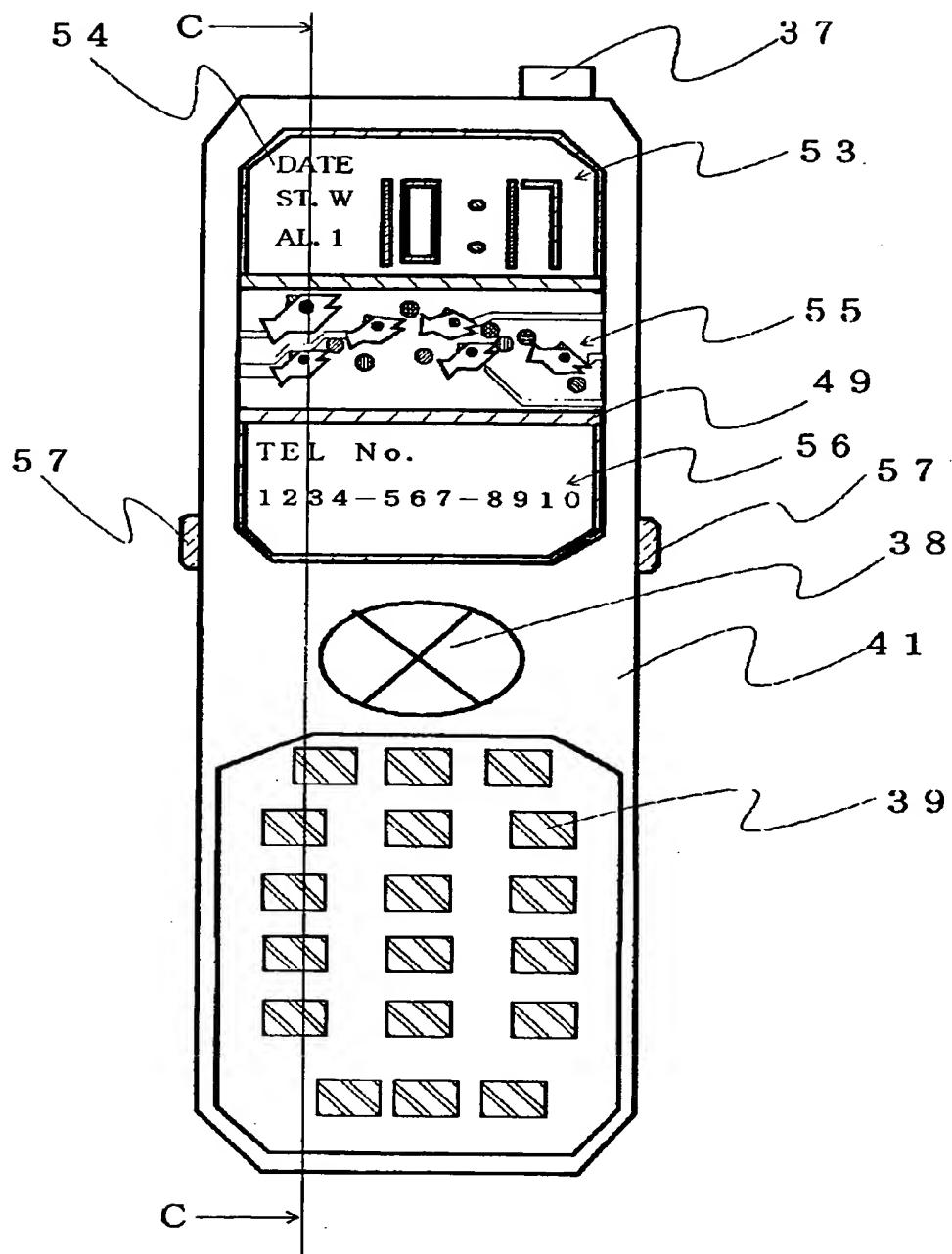
【図1】



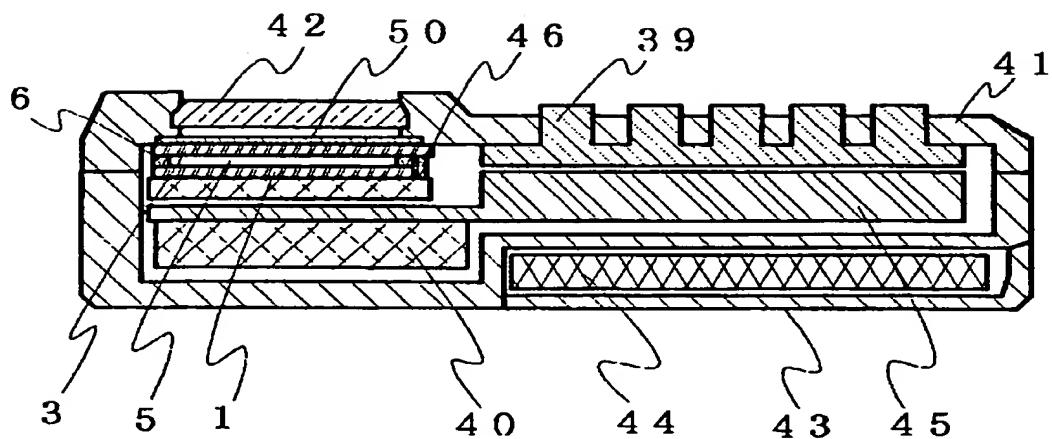
【図2】



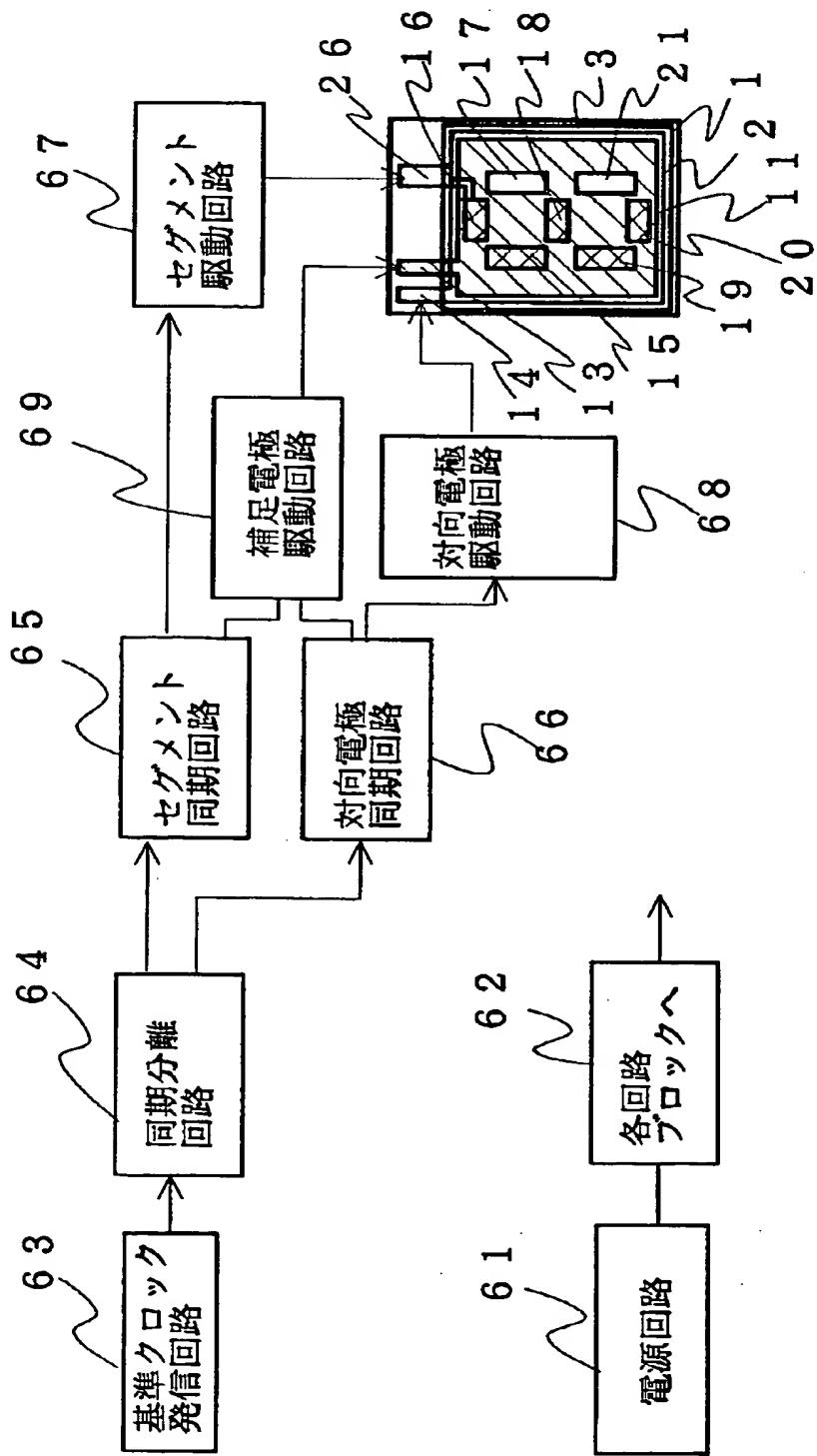
【図3】



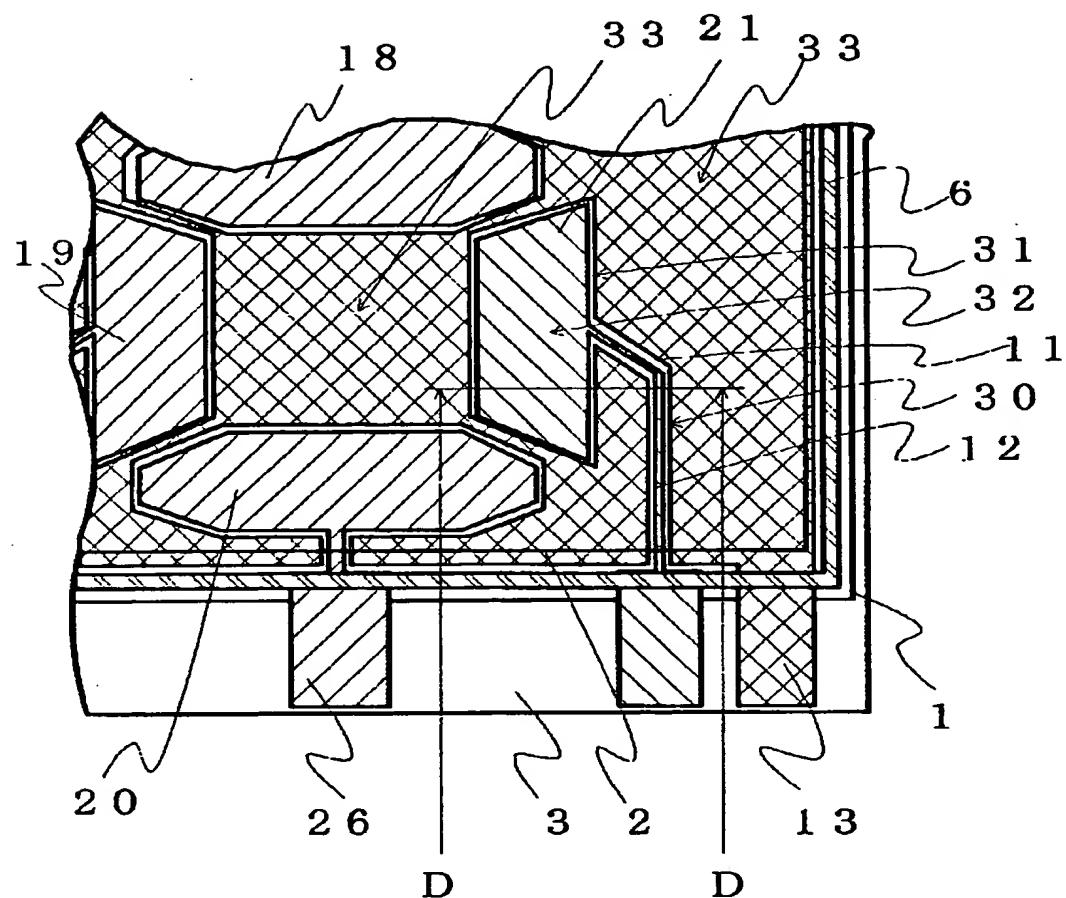
【図4】



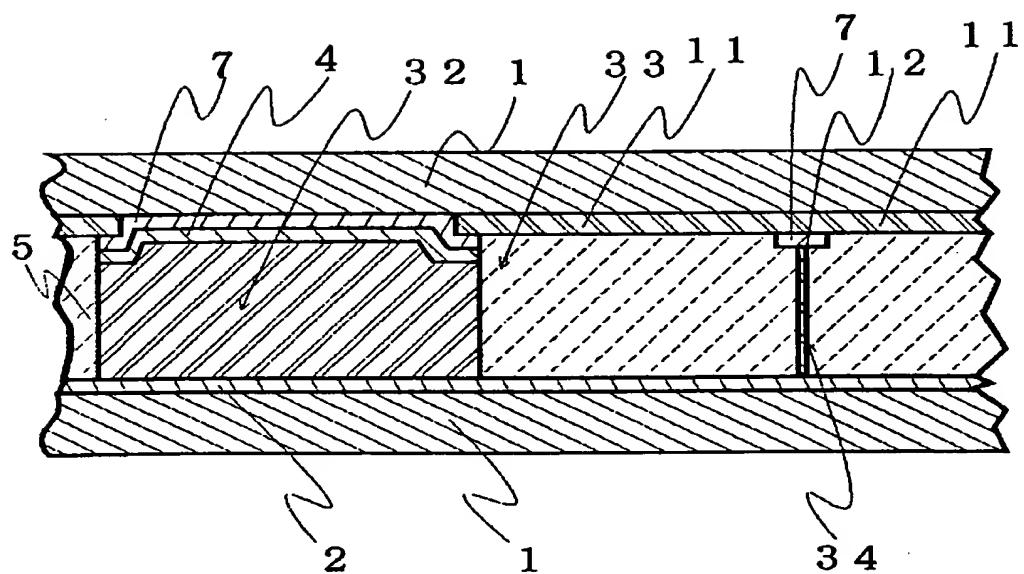
【図5】



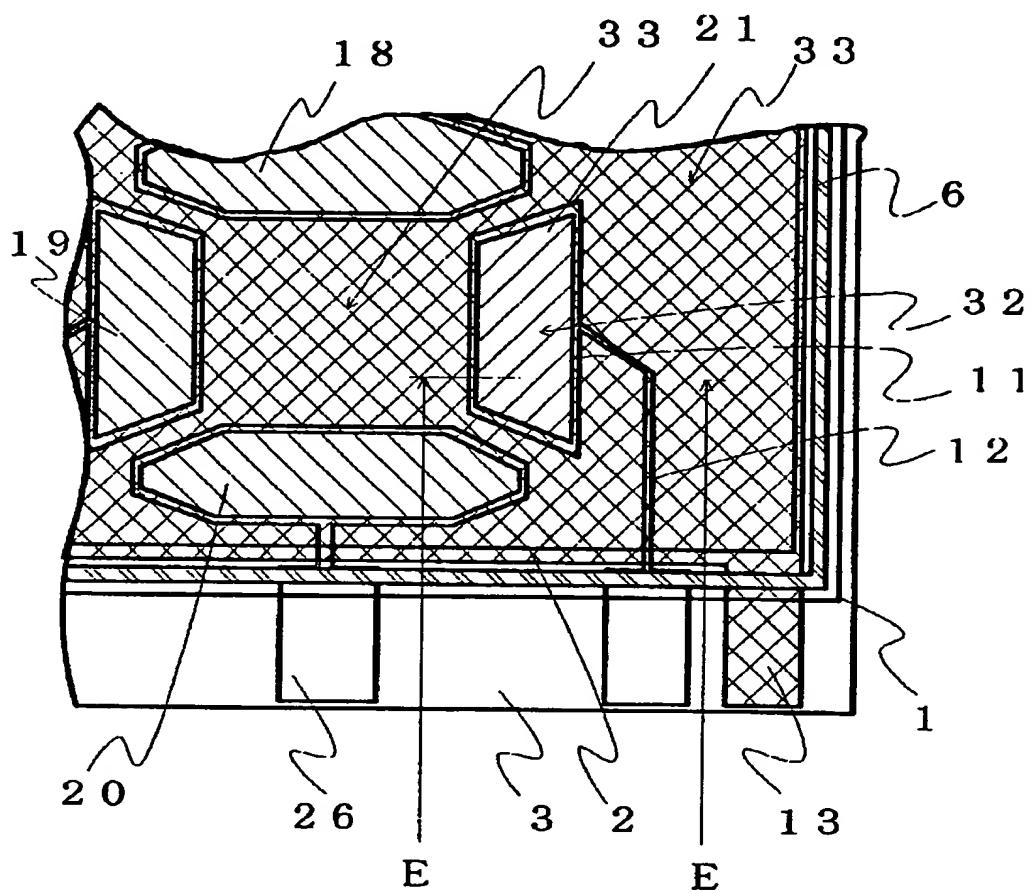
【図6】



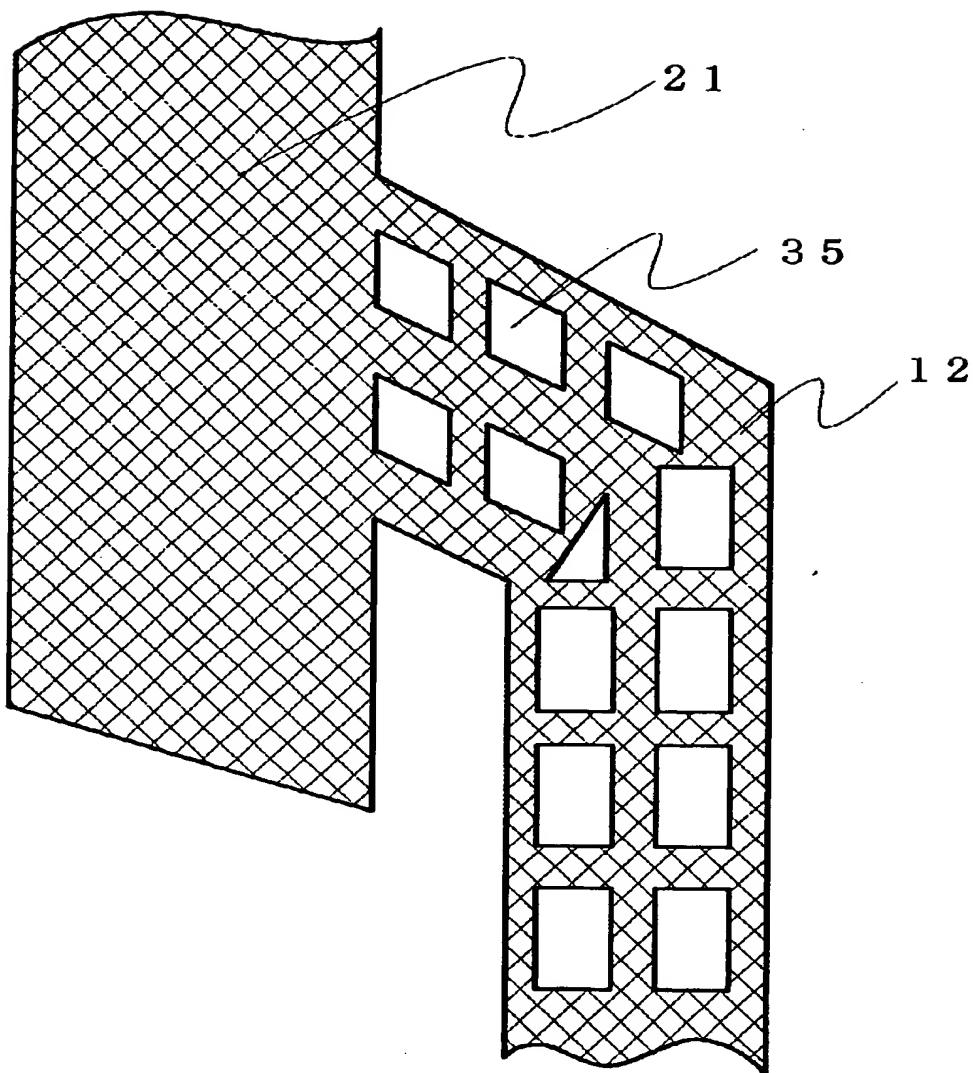
【図7】



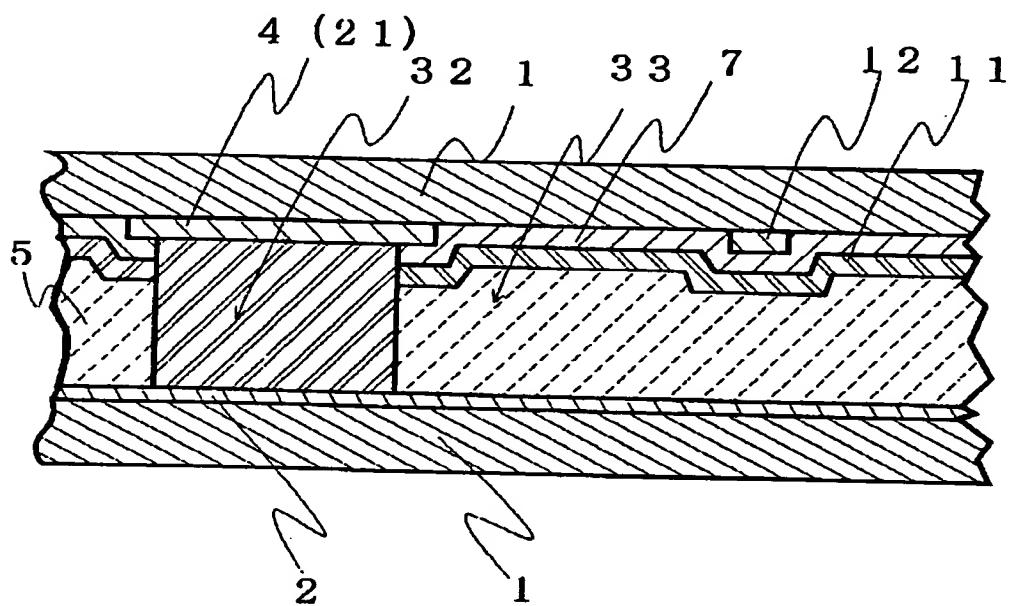
【図8】



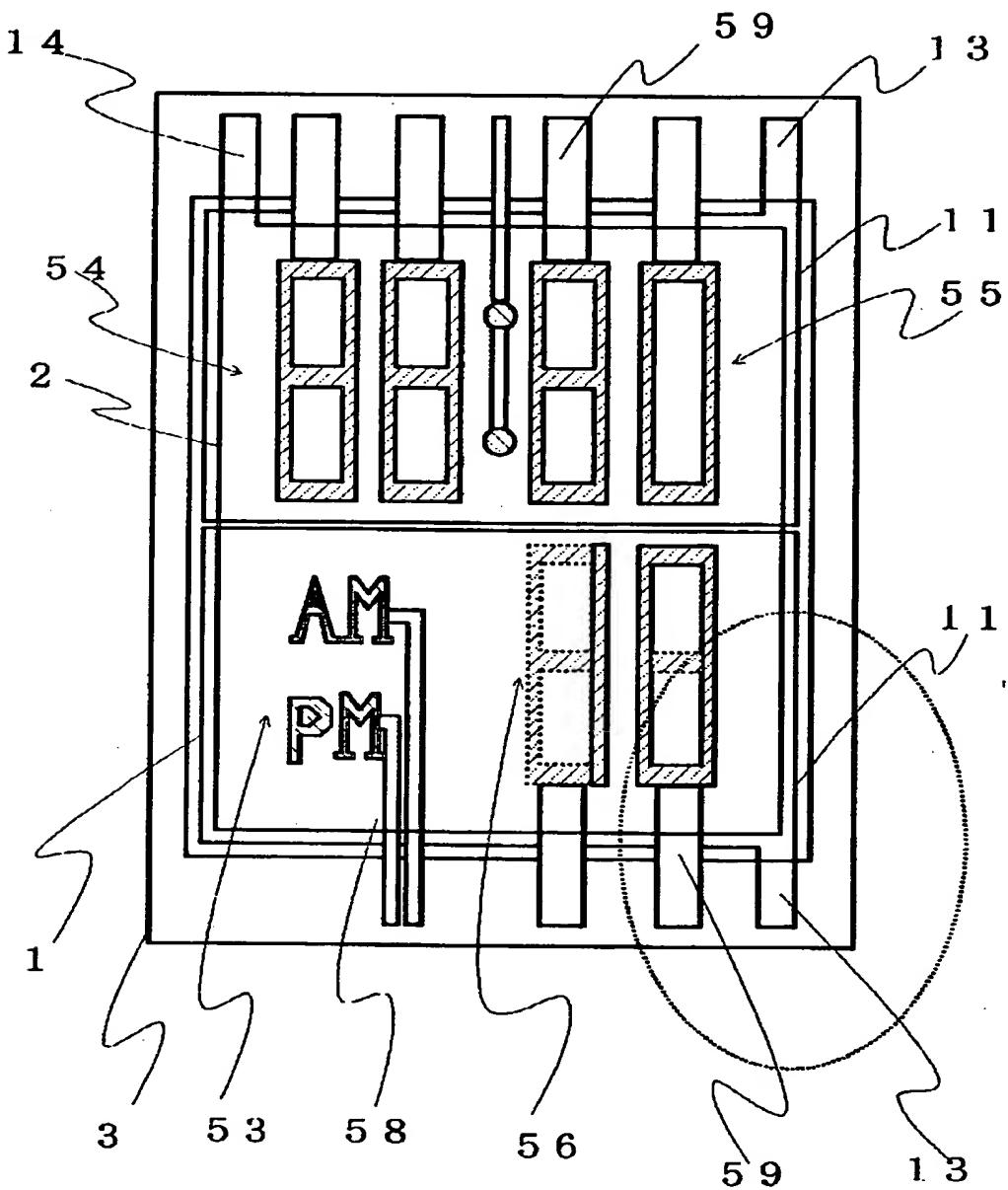
【図9】



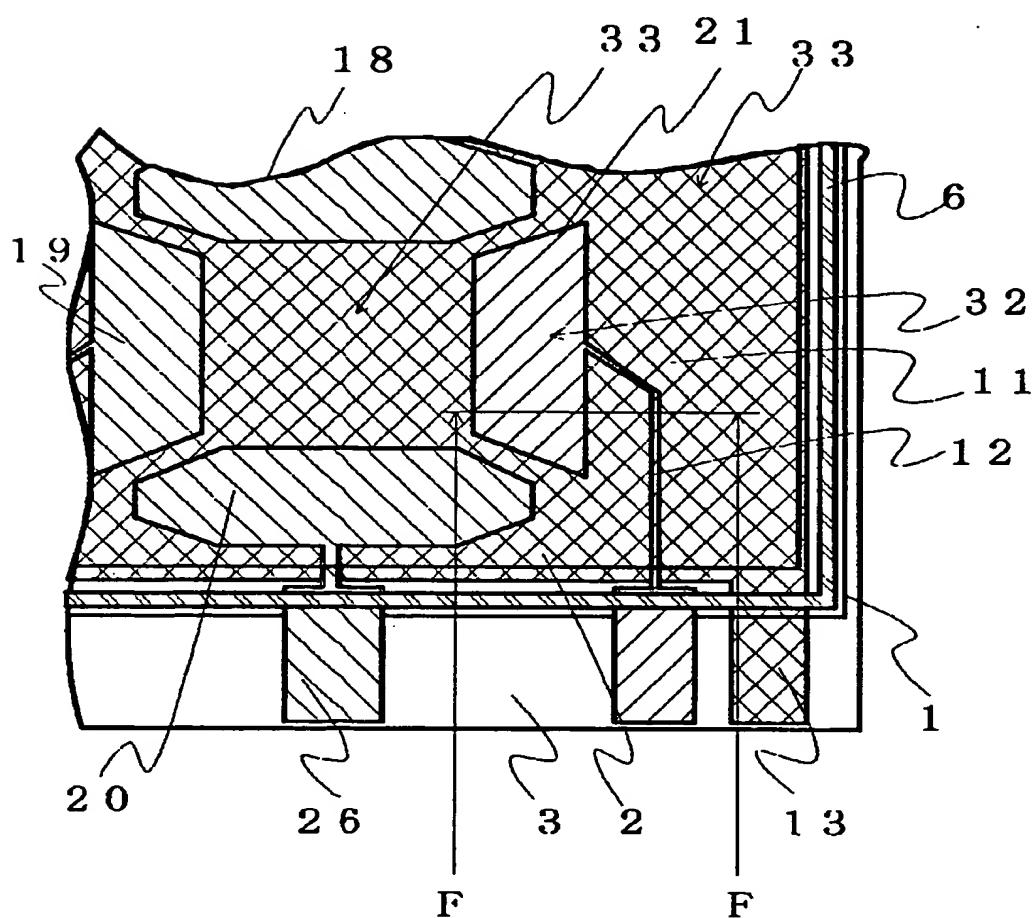
【図10】



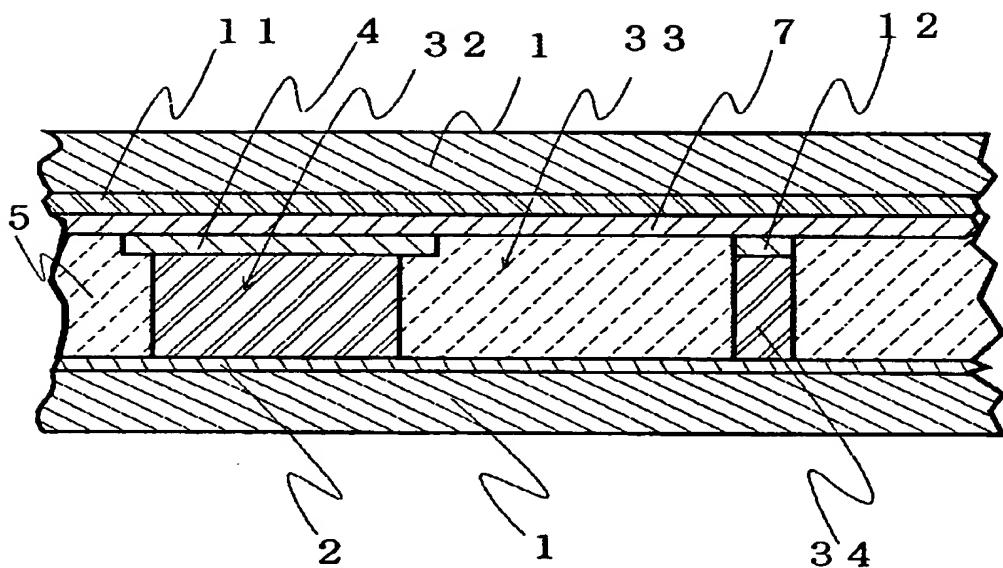
【図11】



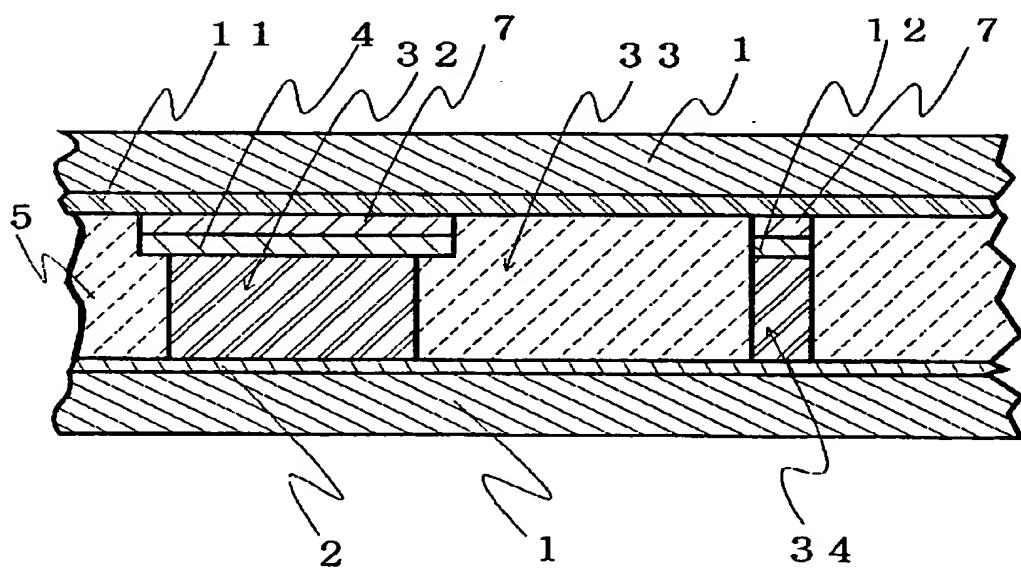
【図12】



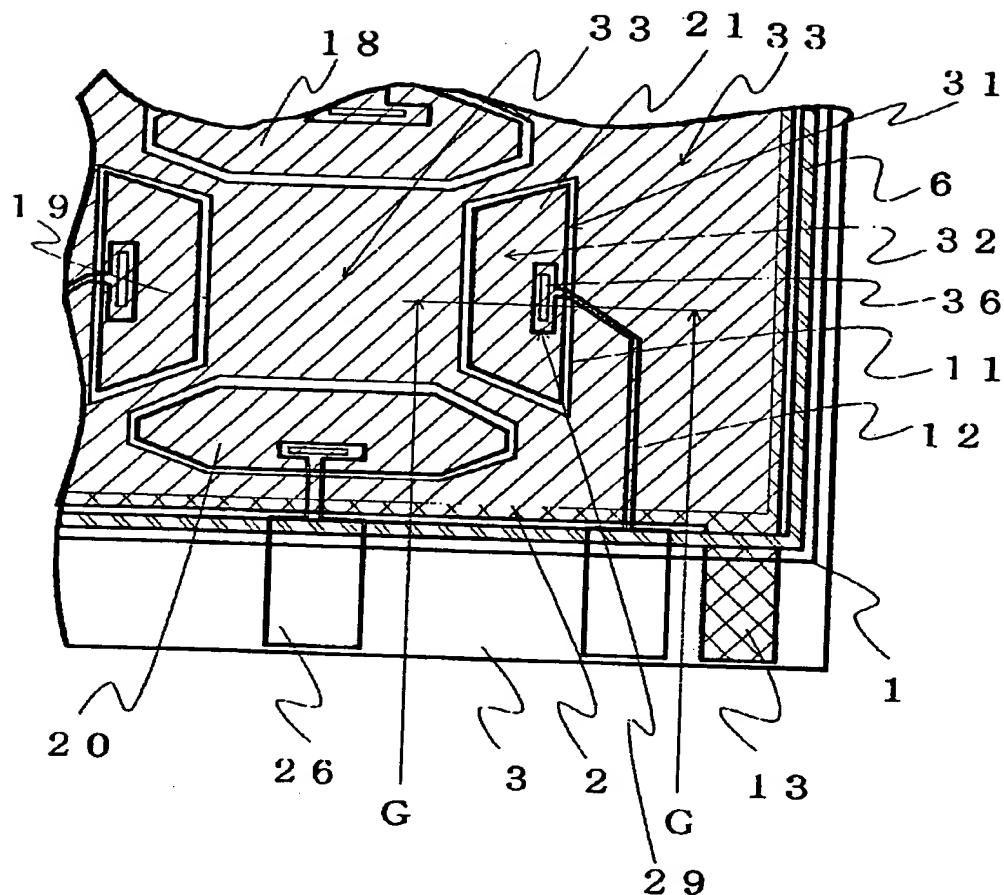
【図13】



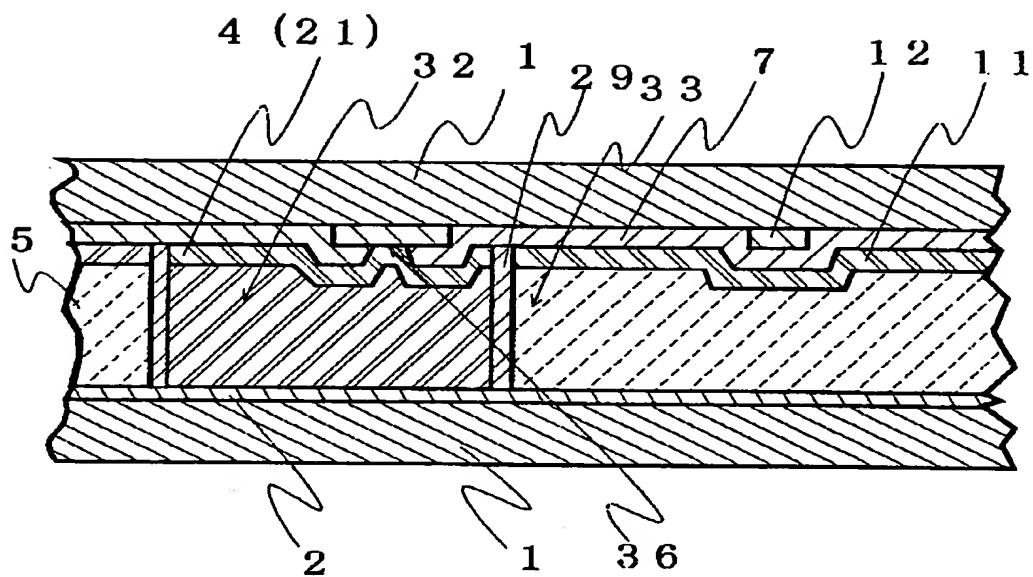
【図14】



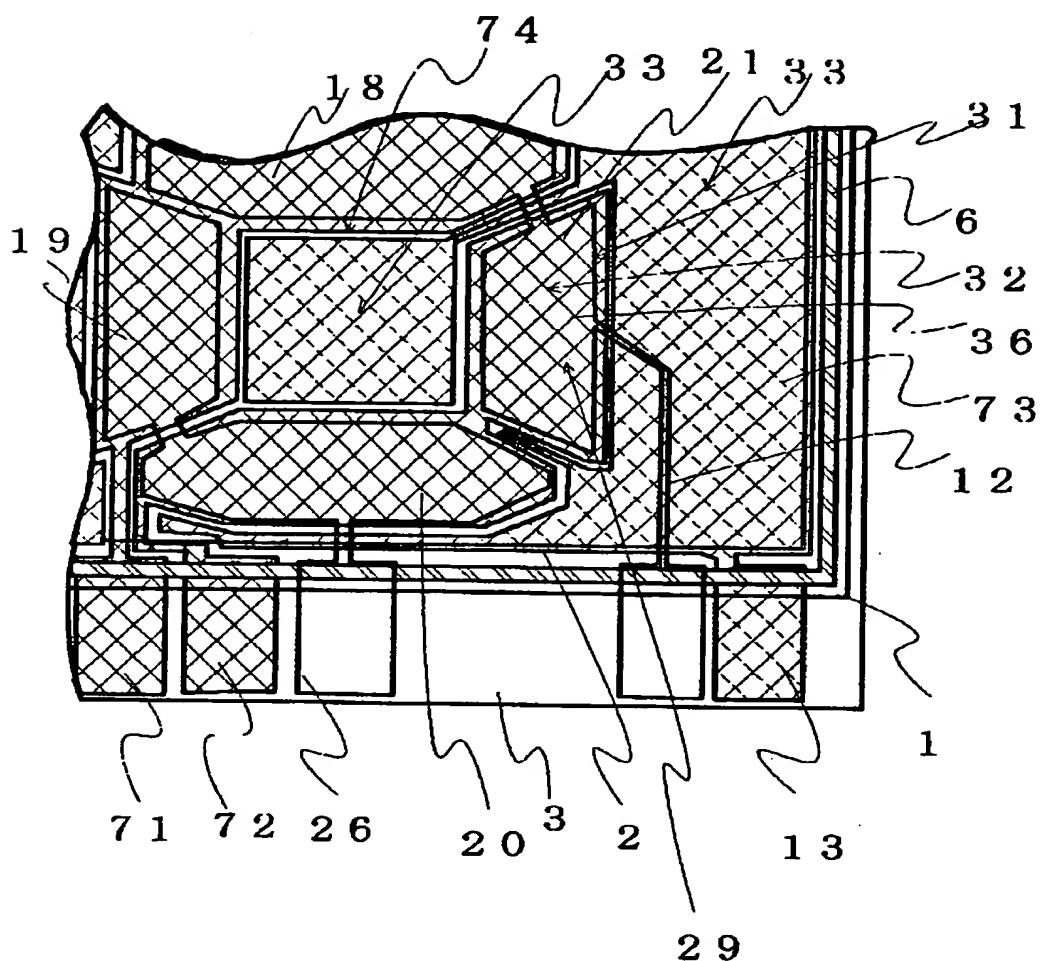
【図15】



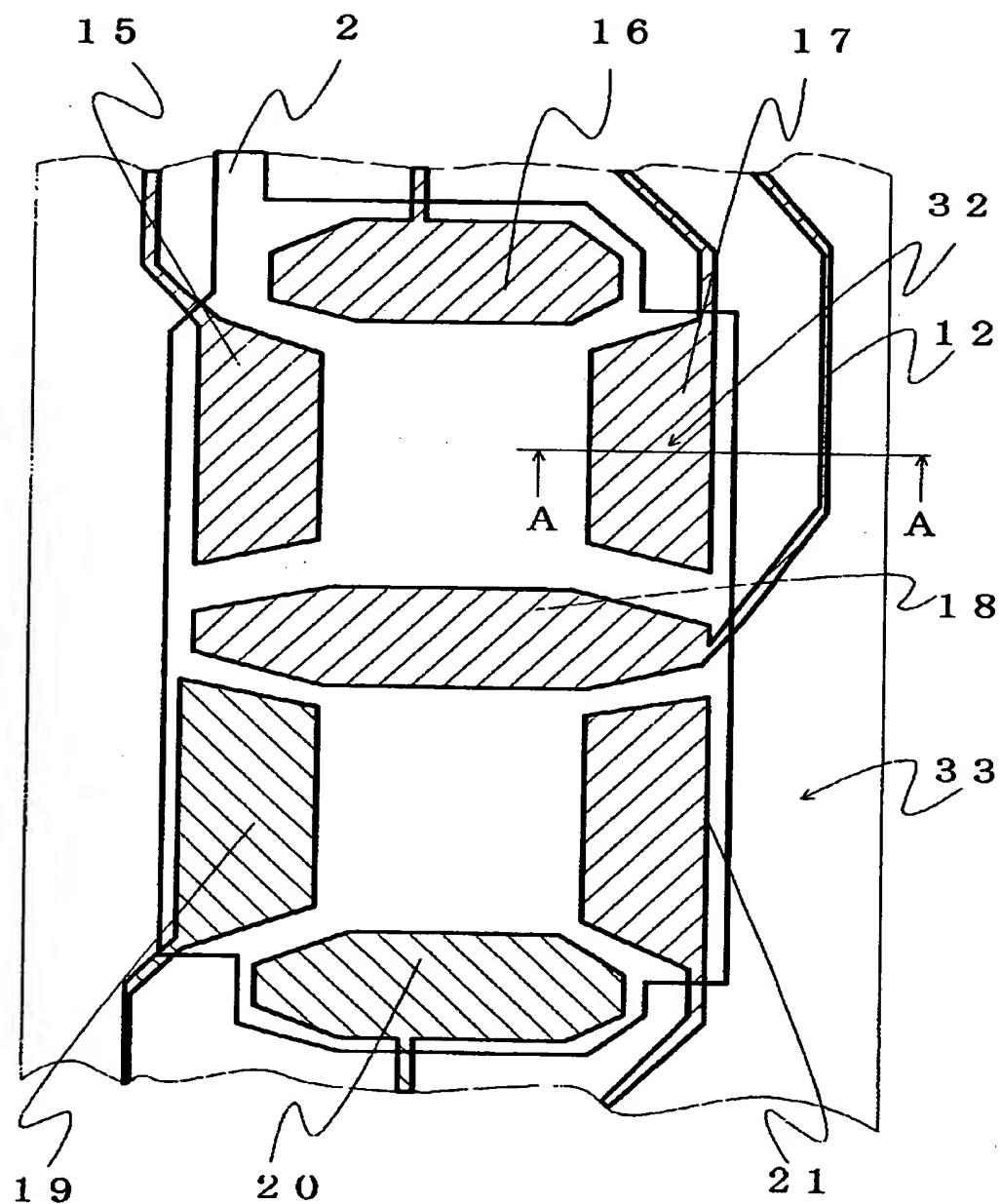
【図16】



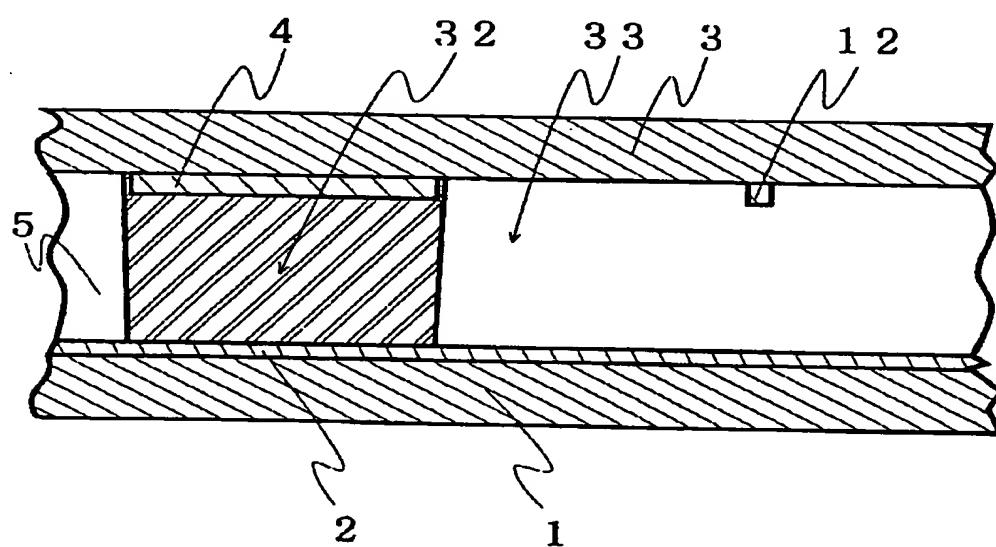
【図17】



【図18】



【図19】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 セグメント電極と補足電極とにより、セグメント電極上の表示部とその周囲の背景部の表示の反転表示、または液晶表示パネルの透過率を大きく可変することができる。

【解決手段】 下基板1上に設ける対向電極2と、上基板3上に設けるセグメント電極4と、下基板1と上基板3との間に液晶層5を有し、液晶層5に電圧を印加することにより、透過、散乱、または吸収の変化により表示を行い、対向電極2とセグメント電極4との重畠部を画素部とする液晶表示パネルにおいて、前記画素部の周囲には、液晶層5に電圧を印加するための補足電極11を有する。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000001960]

1. 変更年月日 1990年 8月23日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号  
氏 名 シチズン時計株式会社